

A decorative horizontal band with a repeating diamond pattern. The diamonds are light yellow and light brown, creating a checkerboard effect. The text is centered within this band.

教師の秘伝 その2

はじめに

川崎市立川崎小学校長 吉新 一之

教師の秘伝2は、学習問題解決の話し合いを深める集団づくりをして、思考力・判断力・表現力・創造力・人とかかわる力を養うことを目指すものです。

秘伝の1では、全員が挙手して、主体的に取り組む「習得の授業」ができる集団づくりをしました。その結果、児童全員が集中して授業に取り組めるようになったり、進んで教え合ったり助けあったりすることができるようになりました。身に付けたこれらの態度や力を基盤にして、「話し合い」を充実させていきます。

秘伝の1が確実にできていることが、秘伝2の成功につながります。定着できていない部分がありましたら、もう一度丁寧に実践していくようにしてください。

話し合いは、どうして大切なのでしょう。思考力を基盤にした力を養う方法は、話し合いだけではありません。論述する方法や問題に取り組ませるなど、当然多様な方法があります。しかし、学校において、一番有効な方法は何かという視点で考えていくことが大切です。思考の連続性とフィードバックによる積み重ね、思考を深める効率的な手立てということになると、学校では「話し合い」に絞り込まれます。

しかし、話し合いと言っても、意見を積み重ねていく「議論」が成立しなければ、思考力を養うことはできません。どんなに活発に発言していても、発言に関連性がなくて、発言が羅列されていくだけでは、思考しているとは言えません。子ども達が自分達で発言をつないで、関連させ、比較し、意味づけして、考えを積み重ねていくことができなければなりません。

教師の秘伝2は、学習問題解決の「話し合い」を「議論」として成立させ、思考力・判断力・表現力・創造力・人とかかわる力を養うことを実現させるためのものです。

変化の著しいこれからの時代に生きる子ども達にとって、最も必要な力をつけていくための最善の方法として、粘り強く取り組んでいってほしいと思います。

教師の秘伝 その2



もくじ

- 第1章** 話し合い、学び深めていく集団づくりの考え方・・・P4
- P5 授業でどんな力をつける必要があるのか
 - P7 目指す授業を実現するための基本的な考え方
- 第2章** 学習問題（課題）解決の学習の基本的な流れ・・・P11
- P13 学習問題をつかむ・自分の考えをまとめる
 - P14 学習問題（課題・主発問）
 - P18 話し合う
 - P19 教師の良い働きかけ
 - P20 まとめの発表・振り返り
 - P21 話し合いの進め方の留意点
 - P23 各教科における話し合いの学習過程
- 第3章** さらに話し合いを深めるために・・・P28
- P29 話し合いをさらに深められる集団にするために
 - P31 話し合いの進め方の4つの方法（A・B・C・D）
 - P33 論理的な思考方法
 - P36 思考力を養うことこそ最優先すべき
 - P37 授業の話し合いは、発言や情報をつないで積み重ねるもの
- 第4章** 教材研究・・・P40
- P41 板書の仕方
 - P42 単元の作り方
 - P43 話し合いの成否は『論点』・『本音』が出される話し合いに
- 第5章** 話し合いの授業の流れの実際と留意点・・・P44
- 第6章** 質問コーナー・・・P54

教師の秘伝2

第1章

話し合い、学び深めていく集団づくりの考え方

秘伝2は、『学習問題の解決に向けて、全員で話し合い学び深めていく集団づくり』をするための方法です。秘伝1の基礎的・基本的な知識や技能の『習得』の授業に対して、秘伝2は習得した基礎的・基本的な知識や技能を『活用』して、思考力・判断力・表現力・創造力・人とかわる力を養う授業の実践ができるようにするためのものです。

学習問題の解決に向けて、全員で話し合い、学び深めていく集団づくりをしながら、人には、いろいろな考え方があることを理解して人と力を合わせて、折り合いをつけながら、問題を解決していく学習をしていきます。

授業でどんな力をつける必要があるのか

これからの社会は、予測できない問題が起こったり、予測できない環境になったり、これまでになかった新たな仕事が生まれてくると考えられています。学んだことを理解して、知識や技能として身に付けているだけでは、対処できなくなってしまうことは明らかです。では、どんな力が必要になるのでしょうか。

まず、問題を問題として認識できる力が大切です。また、その問題を個人ではなく、集団で共有化できるということも必要です。さらに、問題を解決するために、集団で話し合い、折り合いをつけ、解決に向けて具体的な方針や手立てを決定して、力を合わせて解決に向けて具体的な手立てがとれる力が必要になります。

そのためには、話し合いで、自分の考えを出したり、人の考えを聴いたりして、情報（知識）と情報（知識）をつないで意味づけしたりしながら、みんなの考えを積み上げていき、問題を解決していく経験を積む必要があります。

『全員』で話し合い学び深めていくことができる集団の中では、人の考えを肯定的に柔軟に受け止められるようになり、人を許容する力もついてきます。また、自分の意見を否定されても、怒らずに柔軟に思考して、別の意見を出すこともできるようになります。

話し合いの学習は、学習問題の解決をすることを通して、その時間の学習の目標を達成するためでもあります。教師が期待している狭い範囲の概念を正解として確認して終わるようなものであれば、意味がありません。より多くの子ども達の多様で多面的な意見を引き出して、論理的に積み重ねながら、広く・深く考えていくことにこそ、これからの時代を生きる子ども達にとって必要な学びとなります。

つきたい力や態度

- ① 全教科等を貫く、思考力・判断力・表現力・創造力
- ② コミュニケーション能力・人とかかわる力
- ③ 思考しながら、問題解決のために粘り強く取り組める力
- ④ 自らを向上させていくために、進んで挙手して、積極的に自分の考えを伝えようとする態度
- ⑤ 人の話や情報を、自分の知識や経験、価値観と結びつけ、心で受け止めて、考えを再構成して、自分なりに意味づけして、自分の考えを持ち、表現できる力
- ⑥ 学級集団の一員として、集団思考の中で、自己の考えを積極的に出し、人の考えをもとに思考を深められる、学習課題を追究できる力
- ⑦ 話し合いで考えを深めることの良さを知り、積極的に話し合いに参加する態度
- ⑧ 生活や学習では、みんなでよくなることが自分もよくなることにつながるという価値観をもって、助け合ったり、教え合ったりして、生活や学習をしていくことができる態度
- ⑨ 「分からないこと・知らないこと」を、恥ずかしがらずにそのままにしないで、自分から質問したり、助けを求めたりして、主体的に力をつけていくことができる力
- ⑩ 話し合いにおいて、「他の考えや意見」と「自分の考えや意見」のつながりを考えながら、表現することができる力
- ⑪ 課題や問題解決のために必要な情報や資料を集めて、整理・分析をして、自分の考えの根拠として活用しながら、表現する力
- ⑫ 必要以上に自己の考えに固執せず、多様な考えを自己の考えと結びつけ、多面的に思考して、自己の考えを自ら深化させることができる力
- ⑬ 思考ツールの特徴を知り、自分で判断して必要に応じて活用できる力
- ⑭ ICT(情報通信技術)の特徴を知り、自分で判断して目的に応じて効果的に活用できる力

目指す授業を実現する

(1) 互いに認め合う

級友の発言を認めたり、発言を聴いたりして、自分の考えをさらに深める経験を積み重ね、級友のよさに気づき、互いに認め合うことができるようになり、つながりが深められていきます。

『全員』で話し合い学び深めていくことができる集団では、どの子も一緒にいてよかったなと思える授業を実践できるようになります。

(2) 年度当初の話し合いの授業

『全員』で話し合い学び深めていくことができる集団づくりができるかどうかは、教師の力量の差ではなく、教師がどれだけ辛抱強く取り組めるかどうかです。4～7月は、先を考えて、基本的な約束ごとを根気よく身につけさせていく段階です。あせらず授業をじっくり進めていきます。『全員』で話し合い学び深めていくことができる集団づくりができれば、児童に思考力が養われて、学習を主体的に受け止めていく力がつき、授業の進みは確実に速くなります。

最初の話し合いの指導は、形から入り、根気よく約束ごとを定着させることが必要です。すると児童が話し合いで深める方法を教師に自然に伝えてくれるようになります。

(1日1回を目標に話し合いの授業を実践する) 教師は根気よく話し合いの授業を実践して、学習問題の工夫や話し合いの進め方の工夫について検証し、児童が楽しくなるように努力することが大切です。他の先生の工夫を取り入れることもたいへん有効です。

(3) 話し手を育てる聴き方上手の集団づくり

話し手が話をしていて気持ちよいと感じられる集団は、話し手を育てる『聴き方上手な集団』です。「優れた聞き手が、優れた話し手を育てる。」という言葉があります。話し手を緊張させ、話せなくしてしまうのも聞き手です。

授業でみんなが発言して、多様な発言内容が出されるようにしていくためには、話す人がもっと話したくなるような『聴き方上手な集団』づくりに力を入れることが必要です。

〔聴き方上手とは〕

- ①目を見て聴く。
- ②うなずく。(動作があってもよい)
- ③あいづちを必ず声に出す。

☆4月から定着するように、先生が声を出してうなずくお手本を継続して示すことです。

ための基本的な考え方

(4) 自分の知識や経験、価値観、心をつなげる話の聴き方

相手の表情をとらえて、考えながら話を聴けるようにすることが大切です。そして、発言の内容と自分の知識や経験、価値観、心につないで自分なりに意味づけすることができるようにしていくことです。

この指導は、1年生から6年生まで積み重ねをしていくことが必要です。児童の発言が、自分の知識や経験、価値観、心と結びつけられていたときは、たくさん褒めることを繰り返していくことが大切です。たとえ論点からずれていたとしても、褒めて理由付けをしていると、進んで発言する児童が増えてきて、発言内容の質にも高まりが出てきます。

(5) 話し合いの授業で教えるもの

学校生活で一番長いものは授業です。その授業で満たされることこそが、毎日の児童の喜びとなります。教師が意識すれば、毎日・毎時間の授業で、人権の教育、思いやりの教育、道徳の教育、情操・心情の教育が積み重ねられます。

級友の様子をすばやく察知して、困っているときは声をかけ、優しく助けることが大切だという価値観を、学級に作り上げていくことが大切です。そのことが、だれでも安心して伸び伸び過ごせて、自分の力を十分出すことができる場を作ることにつながります。

(6) 間違っても、話し合いではプラスになる。

「間違ってもよい。間違いは次への一歩となる。」「分からないことははずかしくない。」

「疑問を出すことはすばらしい」「間違ってもなんでもいいから、とにかく発言して話し合いに参加する。」という雰囲気を作ること、最優先です。間違ってもよいこと、間違っても発言することの大切さは、常に確認して、間違った児童をフォローしていく必要があります。常に助け合いのあるあたたかい集団作りを心がけることが大切です。全員が気軽に発言できる受容的な雰囲気は、いつでもどんなときでも大切にします。

目指す授業を実現する

(7) 教材研究を深めることが自然な形で求められる。

『全員』で話し合い学び深めていくことができる集団ができてくると、それに応えるための教師の専門性が、児童から求められてきます。必然的に教師自身が学習内容を先取りして勉強するようになり、教師に専門家としての自信がついてくるはずです。

(8) 教え合う、助け合う、みんながよくなる。

「教えること」、「教わること」も大切な学習であり、教え合う、助け合うことは、一方的な関係ではないという価値観を学級につくることが大切です。全員で学習し、支えあって、全員が高まっていくことが大切です。一人でも学習が嫌いになったり、取り組もうとしなかったりしたら、学級はよくなるらないという『価値観』を教師が作り上げていきます。

『全員』で話し合い学び深めていくことができる集団には、本当に『級友のため』になるその子に応じたかかわり方（優しさと厳しさ）をしようとする雰囲気があります。

授業の話し合いでは、人とのかかわりを深め、相互に理解し合うことが積み重ねられ、絆が深くなります。そのことを通して、人のすばらしさに気づき、人を認め、自己を認められるようになっていきます。

(9) 単に知っていること・わかっていることを発表して終わりの、レベルの低い授業にしない。

塾で習った子や知っている子だけが発言して終わってしまう授業や知識を確認して終わってしまう授業は、知らない子の意欲を低下させるための授業になってしまいますので、やらないように心がけます。

また、一般化された知識や概念だけが出されて終わってしまう授業は、出された内容のレベルが高いものだとしても、授業としては、低レベルでしかないと認識しておきましょう。

児童が発言したら、その内容がどうなのか判断して答えるのは、級友です。自分が答えたい先生がいるかもしれませんが、それでは「一問一答」の授業となり、教師のせまい価値判断で学習が進められる浅い学習になってしまいます。

話し合いでは、単に知識を出し合う表面的なものに終始することなく、『児童の価値観、生活経験、本音』を出させることが大切です。学習内容を主体的に受け止め、自分とのかかわりから深く考え、生き方・考え方に触れられる授業をめざします。

話し合いでは、児童の『価値観』が出されたり、『価値判断』がなされたりするような、本音の出る深まりのある授業をめざしていきます。時には、その子の生き方や価値観に触れる、深いものになります。

ための基本的な考え方

(10) 教え合う、助け合う、みんながよくなる。

発言の苦手な児童が発言したときは、内容に関係なく、意欲などを褒めます。まわりから馬鹿にされたりしないように常にフォローすることを頭に置きます。【よい教師は、その子の気持ちになれます。】

話し合いをしているときは、教師は発言している児童の話聴くことに集中するのではなく、発言を聴きながら、他の児童がどのように聴いているか観察し、必要だと判断した働きかけをしていくことが大切です。発言やつぶやき、言葉にならない声も聴こうとすることこそ大切です。児童の発言を聴いてうなずいたり反応したりしてほしいのは、教師にではなくて児童にです。

発言する前の考えている時間では、相談してもいいですよと教師が指示しなくても、児童が周囲の子に自然に相談できるようにしておくことが大切です（自分で分かろうとする）。自分のよりどころを求める行為は、特に自信のない子には、必要な行為です。

主体的な学習ができるようにする指導も大切です。課題に対する学習が終わったら、「他の人を教える」、「教える人がいないときは、自分に必要な学習を自分で判断して進められるようにする」指導も大切です。これが学級で徹底すれば、いつでも自習できます。一歩進むと、先生がいなくても、話し合いをして学習できる学級になります。

教師は、子どもの「よい発言」だけを聴き取ろうとせず、どんな発言にもよく耳を傾け聴き取ることが大切です。

また、教師は、指示・発問は、短く・分かりやすく・はっきりと伝えることが大切です。自分がしゃべっている分、児童を受け身にさせているという意識は、授業では常に持つことが必要です。

だれの発言でも、話し合いで大切にされることが重要です。教師は人権感覚に敏感になる必要があります。能力などで差別されることのない公平、公正、受容的な集団づくりは、授業を進めることよりも優先です。

(11) 認めること・褒めることを大切に。

「前の発言と同じ内容のを発言」をしたり、「全て教えてもらったこと」を発言したりしたときでも、その子の意欲を大切にして、教師が認めることを重ねていくことが、今後の大きな力を発揮することにつながります。

「●●さんが〇〇〇と発言したから、話し合いがよくなったね。」などと良い発言を取り上げ、褒める機会を多くすることが、話し合いを深めていくことにつながる重要な手立ての一つです。

第2章

学習問題（課題）解決の学習の基本的な流れ

学習問題(課題)解決の学習の基本的な流れ

学習に入る前に「見学・体験・読む・調べる」などの活動を設定することで、学習に広がりや深まりが出てきます。

① 学習問題(課題)をつかむ。

② 学習問題について、自分の考えをまとめる。(『全員が挙手』できるように個別に支援する。)

③ 話し合い。(児童の価値観や児童の経験を基にした発言が出されるように留意する。)

④ 話し合い後の自分の考えをまとめて発表する。

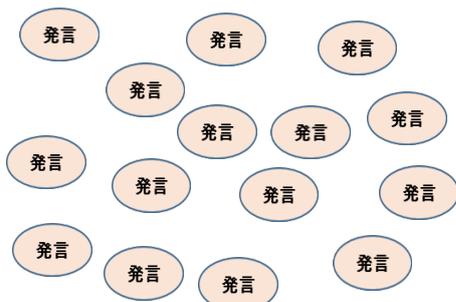
⑤ 授業を振り返り、発表する。(他の意見との関わりで、自分の考えがどうなったかなど)

学習問題解決の話し合いの授業

学習問題

学習問題に対する自分の考えをノートに書く

話し合う



話し合いの後の考えをまとめて、発表する。

振り返りをまとめて、発表する。

教師として毎日毎時間の授業で、人とのかかわり方を教えたり、人とかかわることの良さを体験さたりするように努力します。

発言(意見・質問・反対)

発言(意見・質問・反対)

発言(意見・質問・反対)

発言(意見・質問・反対)

積み重ねる

ここからは、話し合いの学習過程における各活動、「①学習問題をつかむ、②学習問題について自分の考えをまとめる、③話し合う、④話し合い後の自分の考えをまとめて発表する、⑤授業をふり返り発表する」について説明していきます。確実に理解してから、児童に学ばせましょう。

①学習問題をつかむ

- 事前に、今度こんなことを勉強するよ、と予告しておくことも有効です。
※意欲の高い子は、進んで下調べをするようになります。
- 深く話し合う場合は、学習問題解決の話し合いの『前の時間』に、問題について調べたり自分の考えをまとめたりする時間を設定することもあります。
- 話し合いに慣れてくるとどんな学習問題でも話し合いは深められていきますが、最初は、学習問題により話し合いの深まりが左右されてしまいます。意外性のある学習問題などを工夫すると、話し合いが活発になります。

②学習問題について自分の考えをまとめる

- 自分の考えを持つまで十分時間を確保します。
(考えは書かせる) (すぐに発言させない) (じっくり考えて、自分の考えを持つ)
- 常に児童は相談して良いことにしておきます。
(だんだん自分の考えが持てるようになる)
- 自分の考えがまとまっている(多面的に記述できている)児童は、分からない児童を教えるようにします。
- 教師は、発言が苦手な児童への支援を最初にしていきます。(1人に時間をかけすぎない。原則は他の子が教えるように)その後、各児童の記述内容について、把握していき、授業の流れを考え、どの発言から進めていくか決めておきます。
(発言が苦手な子を最初に発言させることも考えておきます)
- 前時までの活動で、課題について自分の考えをまとめさせている場合は、話し合いから学習を始めます。

学習問題(課題・主発問)は、授業をどのような方向に進めていくか決定づけたり、授業の広がりや深まりを左右したりする重要な要素です。学習問題については、どのようなものが望ましいのか自分なりの考えを持っておくことが大切です。これから説明することを生かして、学習内容や児童の実態、育てたい力を考慮しながら、学習問題を設定していきましょう。

1. 学習問題（課題・主発問）についての考え方

学習問題に対する答えを見つけることだけが、学習問題解決の話し合いの最終目的ではありません。学習問題について、多角的・多面的、多様にどこまで広く・深く考えたかが大切です。児童の持っているすべての知識や技能、経験、価値観をもとに解決のための取り組みが出来る学習問題にしていくことが大切です。また、学び方を学ぶこと、つまり汎用的な能力を養うことも大切です。

なごやかな雰囲気、楽しく話し合うことが大切です。そうすると、塾とかで習っている子が一般化された知識を発言して終わりの授業になりません。児童の生活経験や価値観、これまでの知識と関連付けた考えが引き出され、話し合いが深められるようになり楽しくなります。

どの学習内容を学習問題の話し合いにするかは、一人一人の先生が判断し、話し合いの学習指導の経験を根気よく積み重ねていくことが大切です。

2. 学習問題を作るとき意識したいこと

- 学習の方向性を示している問題
- 児童にとって、動機付けの強い問題（どの子も自分なりの考えが持てる）
- 前時の学習の終わりの児童の意識（問題意識）とつながっている問題
- 『どっちがいいか?』『役立つか?』『本当か?』『よいか悪いか?』 価値判断の問題
- 児童の思考や経験とずれがあり、意外性のある問題
- なんとなく分かりそうな感じがする問題
- これまでに身に付けた知識や技能、経験など全ての力を活用して解決する問題

「なぜ?どうして?」と問う学習問題は、正しい答え（ある程度正しいとされる）を求めることになります。児童が発言して答える場合、話し合いではなく、発表の羅列になります。そこに、思考を深めていく活動はあまり期待できません。これらをもとに考えを深めていく場合は、1つ1つ出された発言が「本当に正しいのか。」とか「そのわけを考えてみよう。」とか「これらの中で一番重要なものはどれか考えてみよう。」など、新たに論点を作る必要があります。もしも、学習問題が求める理由だけを発表して学習が終わってしまっただけでは、知識として身に付けていたことや調べたことを発表するだけの活動であり、そこに思考する活動はありません。

それに対して「～したほうがよいか?どの方法がよいか?どう考えるか?」などの学習問題の場合は、根拠になる情報や資料、知識や経験を生かしながら、自分の考えをまとめて、話し合いで、論理的に思考しながら考え方を広げたり深めたりしていくものになります。それぞれの特徴を知って、効果的に活用することが大切です。

3. 学習問題（課題）例

大工さんがおみつさんのことを好きになったのはいつだろうか。(わらぐつの中の神様)

大工さんが、わらぐつを買ったのは、結婚したかったからだろうか。(わらぐつの中の神様)

ごんは、うなずいたとき、うれしかったのか、悲しかったのかどっちだろうか。(ごんぎつね)

大工さんは、おみつさんのわらぐつを本当にほしかったのか。(わらぐつの中の神様)

青い煙は何を表わしているのでしょうか。(ごんぎつね)

最後にごんは幸せになったのでしょうか。(ごんぎつね)

大造じいさんは、残雪を逃がして良かったのか。(大造じいさんとガン)

題名の「海のいのち」とは何か。(海のいのち)

せっかくのチャンスなのに、大造じいさんは銃を下ろして良かったのか。(大造じいさんとガン)

この説明文が一番伝えたいことはなんだろうか。(国語)

この物語で、作者は何を伝えたいのだろうか。(国語)

このお話の題名の意味はなんだろうか。(国語)

敬語は必要でしょうか。(国語)

聖武天皇が大仏を建立して、世の中はよくなったか。(6年社会)

米作りが始まって、くらしは楽になったか。(6年社会)

日本は、開国して良かったでしょうか。(6年社会)

国会が開かれて、国の力は強くなりましたか。(6年社会)

国会の開設で、民主的な世の中になったか。(6年社会)

信長・秀吉・家康のだれが天下を治めるのにふさわしいか。(6年社会)

源頼朝は、鎌倉に幕府を開いてよかったでしょうか。(6年社会)

輸入食料品が増えると、得するか損をするか。(5年社会)

明治維新で、国民は幸せになったか。(6年社会)

食糧を確保するため、輸入を増やしたほうがいいのか、自給率を増やしたほうがいいのか。(5年社会)

お店は、駅の近くにつくった方がよいか。(3年社会)

〇〇〇法案は、国民にとってよいものか。(6年社会)

ごみの集積場所をどこにしたらよいか。(4年社会)

ごみ置き場(収集場所)は、どうやって決めればいいのか。(4年社会)

北海道と沖縄では、どっちに住みたいですか。(どっちで農業をしたいですか)(4年社会)

テレビと新聞は、どっちがいいですか。(5年社会)

戦国時代で一番活躍したのは、信長と秀吉と家康の誰でしょうか。(6年社会)

エコ生活をした方がよいか、便利な生活をした方がよいか。(5年社会)

栽培漁業と養殖業、どっちがいいか。(5年社会)

参勤交代は、やってよかったか。(6年社会)

織田信長は、どんな人か。(6年社会)

これからの日本は、鉄の生産量を増やすことができるだろうか。(5年社会)

お祭りは、町にとっていいことか。(3年社会)

どのやり方が役に立ちますか?(算数)

【は・か・せ→速く、簡単に、正確に】「最小公倍数」は、生活の中のどんなところに役立ちますか。(5年算数)

光電池と乾電池、どっちがいいか。(5年理科)

星野君は、監督の指示に従わなくても、ヒットを打てたのでよかったのだろうか。(道徳)

手品師は、約束通り、少年のところに行った方がよいでしょうか。(道徳)

絵と写真は、どっちがよいと思いますか。(図工)

③話し合う

◎学習問題に対する最初の考えについては、全員が手を挙げられるようにすることを目指して根気よく努力を続けます。（手を挙げるまで待つことが大切です）

※この段階で、一部の児童が手を挙げただけで、話し合いに入ってしまったら、『全員で話し合い、認め合い、高め合う集団』づくりは100%不可能です。

○指名されたら「はい」と言って、立ちます。（椅子は入れなくて良いです）常に学級のものに聞こえる声の大きさを発言させます。次の人に話し合いが『つながったら』すわります。

○発言するときは、児童が多くいる方向を向いて発言することを習慣化させます。教師や黒板の方向を向いて発言するのでは、話し合いは成立しません。

○発言するときは、自分の考えをみんなに伝える（分かってもらう）ためだという強い目的意識を持たせるようにして、黒板や模造紙、実物投影機、実物を活用するなど、自分の考えを分かりやすく伝えるための方法を、自分なりに工夫できるように指導を積み重ねることが大切です。（動きのある授業）

○発言を聴くときは、発言する人の方向を向いて、何を言いたいのか、何をしたいのか『理解しよう』というあたたかい気持ちで、聴けるように指導を積み重ねていくことが大切です。

◎教師は、できるかぎり黒板の前に立って授業を進めません。

○話し合いでは、論点を明確にするなど、教師は話し合いを深めるための働きかけをします。

○相互氏名で授業は児童が進めていきます。【つけたし・質問・同じ・反対】

●一番最初の発言内容が難しいと、その発言をもとに考えることができる児童が限られてしまうことがあります。発言内容が単純なものから、話し合いを始めるほうが児童は発言しやすくなります。

◎質問をすることは、話し合いを深める手段として、最も大切になります。分からない言葉があったり、意味が通らなかつたりする「発言」には、児童が質問できるようにしておくことが大切です。質問してほしい場面では教師が「質問はないですか？」などの働きかけをすることが大切です。そして、質問した児童を、教師が褒めれば、そのような場面で質問するようになります。教師が児童の立場になり、「質問です。」と言って、指名してもらい質問の仕方の手本を示すことも有効です。質問は、話し合いを深めるための効果的な手立てということを頭に置いておきます。

●質問されたら、答えられるように、難しい言葉は、辞書などで調べておくことも指導しておきます。

◎自分の意見に質問されて答えられないときは、だれかに代わって答えてもらえることが当たり前の雰囲気になります。（安心して発言できる雰囲気）発言の途中で「忘れました。だれか代わって下さい。」などと言って、他の児童に代わってもらえるようにしておくと、安心して話せるようになります。「途中まででも発言して、えらかったです。」など必ずフォローすることが大切です。

【その子の気持ちになることです】

●黒板はみんなのノートとして、子どもが活用できるようにしていきます。

●話し合い中でも、児童が自分の判断でノートにメモするように指導します。メモする内容は、自分の考えのよりどころになる発言やキーワード、気付いた点がよいです。ノートが「学習問題」と「最初の考え」と「まとめ・振り返り」の記述だけでなく、自分の思考過程が分かるノートにさせていきます。思考ツールも自分から使えるようにしていくと、活用できるノートになっていきます。

○教師は、常に論点を意識して、論点が児童にとって明確になっているか判断し、必要に応じて確認や助言をしていきます。これが学習の深まりを左右します。

◎間違いやすれた発言をばかにしたり、非難したりすることがあったら、授業を止めて、厳しく注意します。

※常に「間違ってもいい。」「分からないから勉強している。」と確認して、安心して発言できる受容的な雰囲気作りをしていきます。同じ発言内容でも、苦手な児童が発言できたときは、特に認めて賞賛します。先生が否定しなければ、安心して発言できるようになります。

○常に相互指名ということではありません。教師は話し合いの進め方を考え、論点を明確にしたり、児童個々の活躍の場面を考慮して優先して児童を指名したりすることも必要です。

※児童に任せっぱなしでは、特定の児童だけが発言するようになってしまいます。

○話し合いを深めていくために発言が途切れたり、「論点」がずれたままになっているときは、教師が児童の立場になり、指名してもらい、模範になる発言をすることも効果的です。児童がまねして発言できるようになってきます。

○話し合いが行き詰まったときは、課題に対して考えた「最初の考え」に戻して、他の児童の発言から始めていくように指導します。（多面的に考えていく）

◎発言できない児童を、周囲が自然に助けることができるようにさせていきます。

（みんながよくなる）

○よい発言内容は必ず褒めます。さらに意欲的になります。生活経験と結び付けられた発言を大切にします。価値判断のある発言も大切にします。

○児童が前に出て説明しているとき、教師はそれを見ていたり手伝ったりするのではなく、全体の児童を見ます。（助けたり、質問したりするのは児童）

話し合いの仕方を学ばせていく段階では、教師が見本を示して、具体的な指導を積み重ねていく必要があります。そのときの働きかけが、その場限りのものではなく、先につながる働きかけになるように、下記の内容を参考にして、実践してください。

話し合いにおける教師の望ましい働きかけの例

「〇〇さんの発言に質問はありませんか？」

「反対意見も言いましょう。〇〇さん。(指名する)」(一面的に話し合いが進んでいるとき)

「反対意見も出てきました。どんどんつけたしてください。」

「〇〇さん、分からなかったら、教わりに行ってください。自由に動いていいですよ。」

「〇〇さん、●●さんが困っているみたいだから、助けに行ってください。」

「〇〇さん、教えるのも大切な勉強です。上手に教えられるためには、深く分かっていないとできません」

「〇〇さん、自信がなかったら、相談しに行ってください。」

「〇〇さんが質問したから、……が分かりましたね。素晴らしいです。」

「〇〇さんの発言で、たくさんの意見がでるようになりましたね。素晴らしいです。」

「今、このことについて話し合っているんですね。」(先生として論点をはっきりさせる働きかけをする)

「このことを証明する資料ありますか？」「実は先生は用意してきました。」「次はみんなも用意できるといいですよ。」

「〇〇さん、●●さんを教えに行ってください、えらいですね。助け合いがとても立派でした。」

「〇〇さんは、『そろそろまとめよう』とみんなに働きかけることができました。時間を考えていてとても立派でした。」

「〇〇さんは、うなずくとき声を出してとてもすてきです。」「自然に〇〇さんを見て話してしまいます。」

具体的な見本を示します

- 子どもの立場になって教師が質問します。
- 子どもの立場になって教師が付け足しします。
- 子どもの立場になって教師が反対意見を言います。
- 子どもの立場になって、教師があらたな視点を発言します。

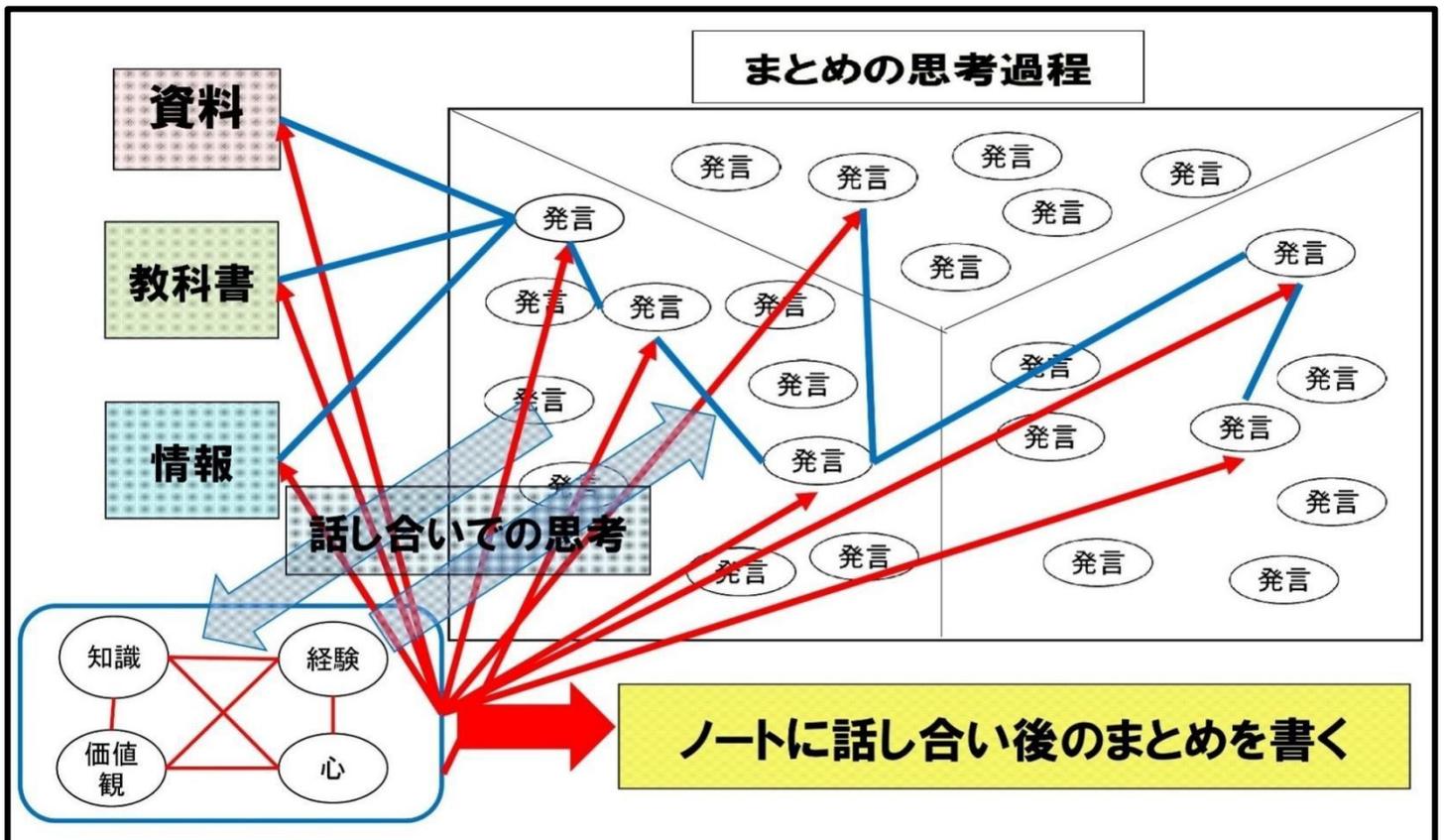
④話し合い後の自分の考えをまとめて発表する

- キーワード(学習内容に関する情報)を入れて、まとめさせます。
- 話し合いを通して、最終的に自分の考えがどうなったか、まとめさせます。
- 他の児童の考えや生活経験などと結び付けてまとめられるように指導を積み重ねていきます。
- 内容に応じて自分とのかかわり、価値判断からまとめられるように助言します。

⑤授業を振り返り、発表する

- 話し合いへの自分の参加態度について。
 - 自分の発言について。
 - 自分の話の聴き方について。
 - 話し合いの進め方について。
 - その他、学習の仕方について気がついたこと。
- ④と⑤の活動は、「まとめ」として一つの活動にしてもよいです。

下の図は、児童が「話し合い後の考えをまとめる」時の思考の例です。話し合いで出た多くの情報を関連させて、自分の頭の中で、知識や経験、価値観や心と結びつけて意味づけして、文章として表出できるように指導していくことが大切です。継続的な指導で、伸びていきますので、焦らないことです。



これまでは、話し合いの学習過程における各活動について説明してきましたが、ここからは、話し合いの授業を進めていく上で、教師として留意したいところを確認します。

〔資料の準備と授業での活用〕

資料を予め準備しておくことは、授業を充実させるためには大切なことです。しかし、自分（教師）が用意した資料を全部使おうとしないで、話し合いの流れからその資料を使うことの必然性が出てきたときに活用します。資料を提示すると授業の流れは大きく変わってしまいますし、児童は受動的になってしまいます。主体的な学習ができるようにしていくためには、必然性が出たときだけ提示することが大切です。

〔意見が出尽くしたとき〕

論点を最初（学習問題に対する考え）にもどせるように指導しておきます。

〔多様な説明方法〕

自分の発言を理解してもらうためには、児童自身がいろいろな方法を自由にとれるということを経験させて、多様な説明方法ができるように指導します。（黒板を使って、実物投影機を使って、模造紙を使って、タブレットを使って、パワーポイントを使って等）

〔話し合いの流れの予測〕

教師は、話し合いの流れの方向性を予測して、意識の流れに即しながら、方向付けるための働きかけをします。

〔対立の話し合い〕

どちらかに結論を出すとか、勝ち負けのためではなく、それぞれのメリット、デメリット、折衷案、その他の方法を多面的に考えるために活用します。

〔論点の確認〕

今何を話し合っているか『論点』を確認して、発言しやすくしていきます。【常に教師は、話し合いの論点を把握したり、先の論点を予測できるようになることが大切です。教師としての力量を高めることにつながります。】

〔気軽に相談〕

自分の考えをはっきりさせたり、自信を持ったりするめに気軽に級友に相談できる雰囲気をつくります。話しを聴きたいときは、その人のところに自由に立ち歩いていくことができるようにしておきます。教わるとき、教えるときも、立ち歩けることが大切です。分からないままじっとしていても、何にもなりません。

〔生活と関連づけた深まりのある話し合い〕

単元のまとめの学習では、極力生活と関連づけた話し合いを入れるようにしましょう。例えば「このまま食料の輸入を増やし、自給率が減っても私たちの生活はだいじょうぶでしょうか。」「光電池と乾電池は、どちらが私たちに役に立つのでしょうか。」「面積の求め方は、どんなときに私たちに役に立つのでしょうか。」「てこの原理は、どんなときに私たちに役に立つのでしょうか。」現在の社会問題にも敏感になり、学習と関連することは、取り上げて話し合うことも大切です。

〔話し合いのまとめ〕

学習のまとめの段階において、教師が「期待する言葉」を、子どもから出させることに固執すると、「言葉当て」みたいになり、意味のない活動になってしまいます。話し合いで出てこなければ、教師が補足して、説明すれば済むことです。まとめの段階で、先生が期待していた言葉（獲得させたい概念）にこだわり過ぎると、狭い範囲の概念を獲得するだけの学習になってしまいます。授業においては、学習問題に対しての考えをまとめることだけが目的ではなく、学習を通して「たくさんの情報をつなげて多面的・多角的考えていくこと」、「多様な考え方を知ること」なども大切な学びであると、常に意識しておくことです。

「最終的に必要な概念を獲得させること」、「育てたい力を養うこと」の両方のバランスを意識しながら、毎日の授業を実践していくことです。

〔理想的な話し合いを思い描く〕

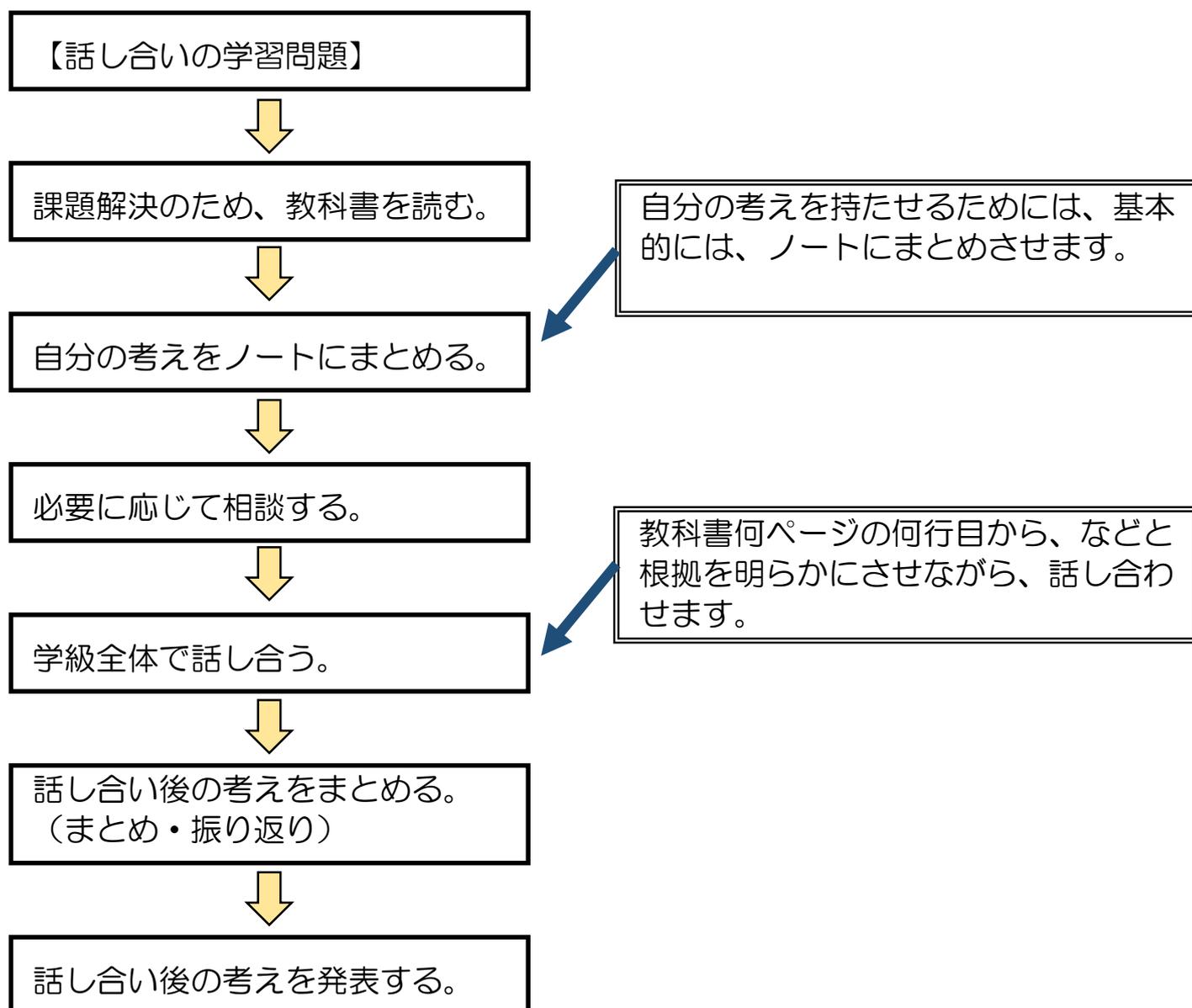
自分の学級の年度末の理想的な話し合いを頭に描いて、一步一步それを目指していきます。

国語・社会・算数・理科は、話し合いを通して、思考力を基盤にした汎用的な能力を養うことに適した教科です。教科によって、話し合いの学習過程に違いがありますが、いろいろな教科に積極的に挑戦して、教師としての力を付けていってほしいと思います。話し合いの学習過程は多様にあります。以下に典型的な例を挙げておきます。（この例示にこだわる必要はありません。）

各教科における話し合いの学習過程

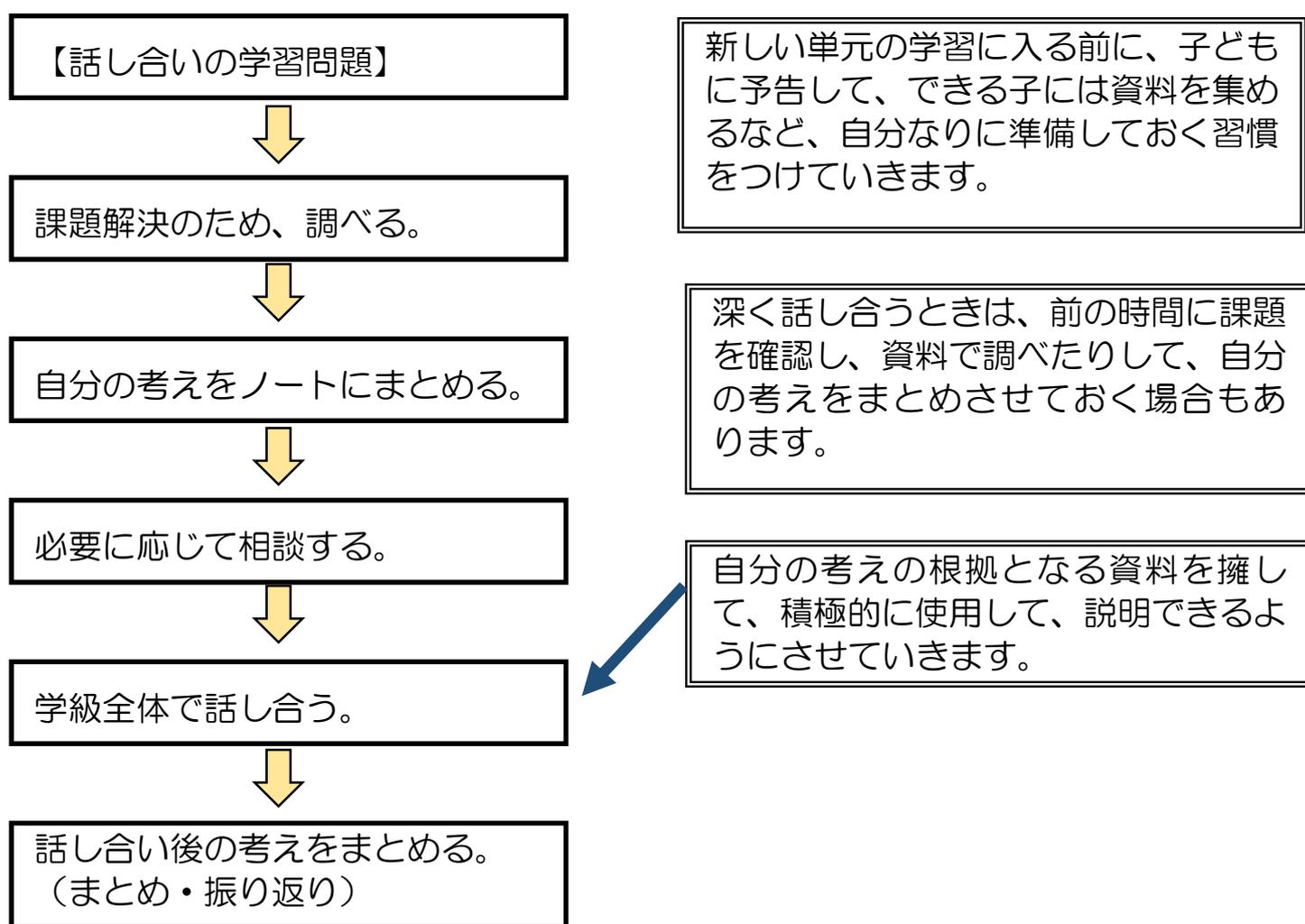
【国語の話し合い学習過程例】

発言の根拠は、教科書に記述されている内容からということになります。「●ページの●行目に書かれています。」と児童がどこから考えを持ったか発言できるようにしたり、その発言を聞いたら、すぐに当該ページを開いたりすることが自然にできるようにする必要があります。また、学習問題解決のための読みは、自分の速さで自分にとって必要な部分を読み進めることができるようにしていくことが大切です。

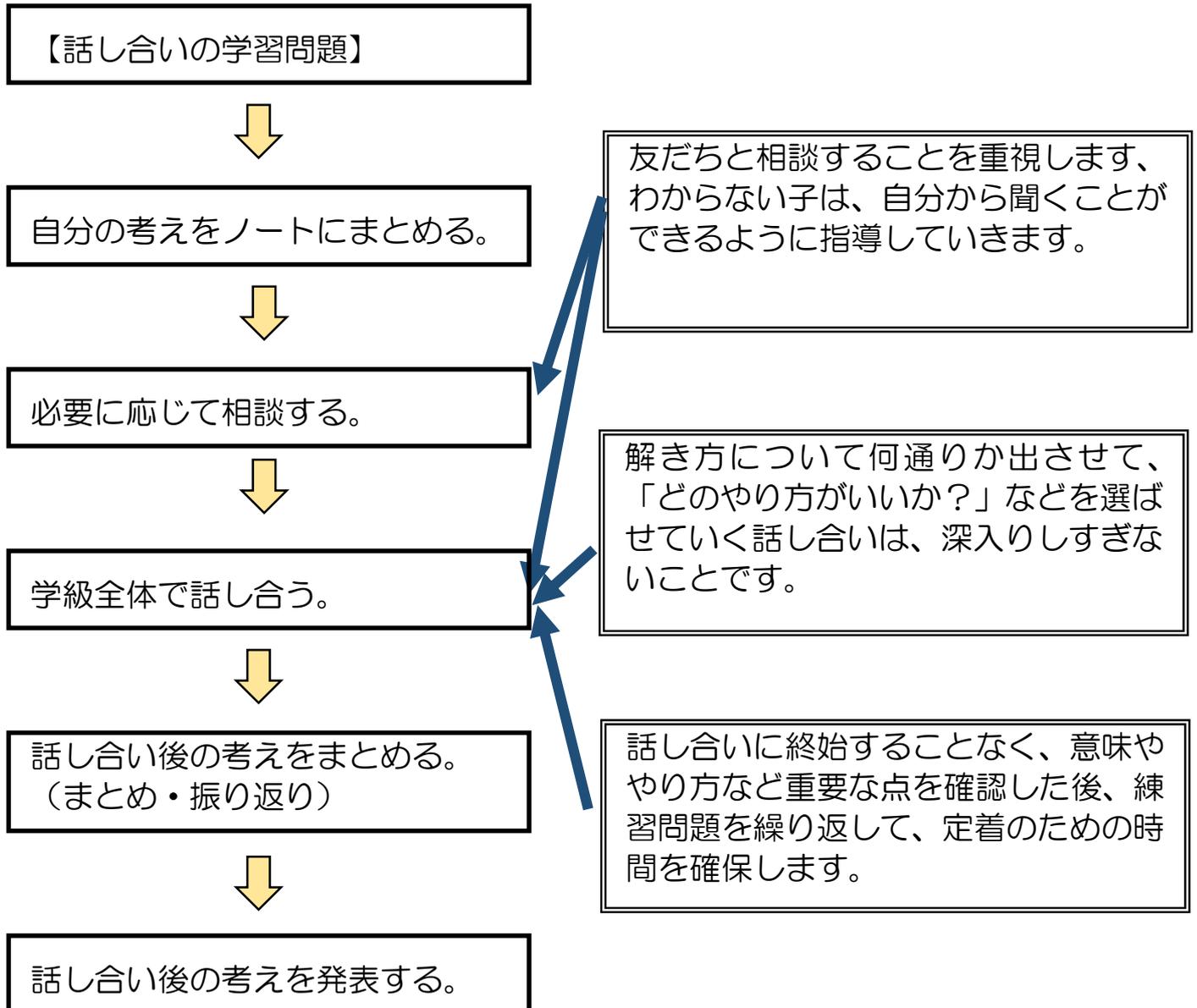


【社会科の話し合い学習過程例】

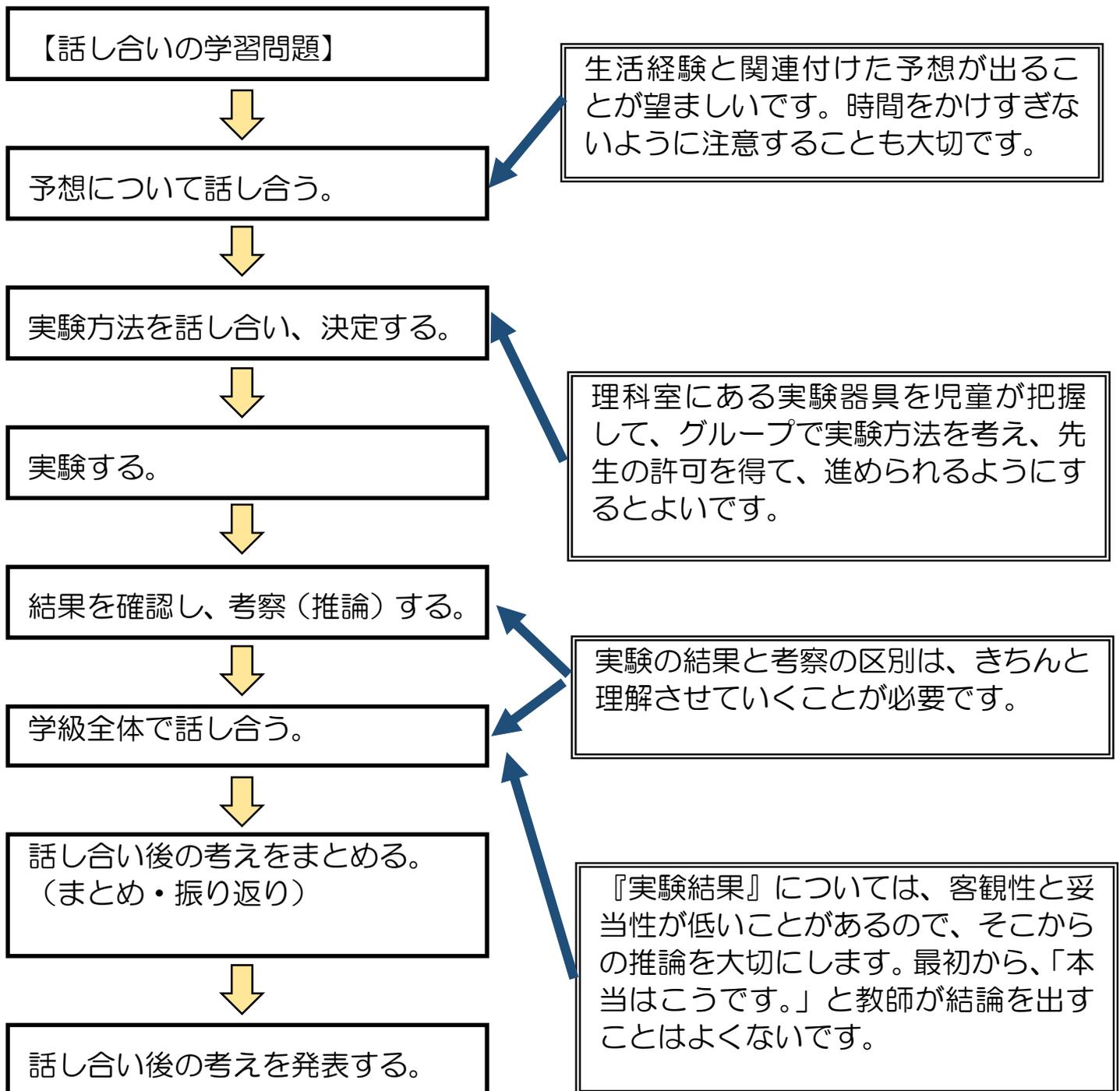
社会科は資料を活用して根拠を明確にしながら、多様な思考を積み重ねていく学習が多いので、深まりのある話し合いが期待できる教科です。また、授業を深めいくために、資料を活用する場面がかなりあります。しかし、教師が用意した資料は、授業の流れから使うことの必然性があるときだけ提示するようにしましょう。1時間の授業で提示する資料は1つか2つで十分です。せっかく用意したのだからと無理して資料を使うのはやめましょう。授業の流れが変わってしまい、授業が途切れたり、児童が受け身になってしまったりするからです。



児童の話し合いが難しくなってきた、話し合いに参加できる児童が一部になってしまうような話し合いは、どんなに深まりが出て、やらないほうがましです。算数の話し合いは、特に多くの児童がかかわり、理解できるということを念頭に教師が進めさせていくことが大切です。



理科の実験を伴う学習で話し合う部分は、『予想する』、『実験方法を考える』、『結果を発表し、考察する』、『新たに出てきた疑問から、次の課題について話し合う。』などが考えられます。最初から全て話し合うと時間が不足してしまいます。できるところから少しずつ取り組ませていくことが大切です。理科で主体的な学習ができるようにしていくためには、理科室の実験の用具（何がどこにあるか）を児童が知るといことも大切です。



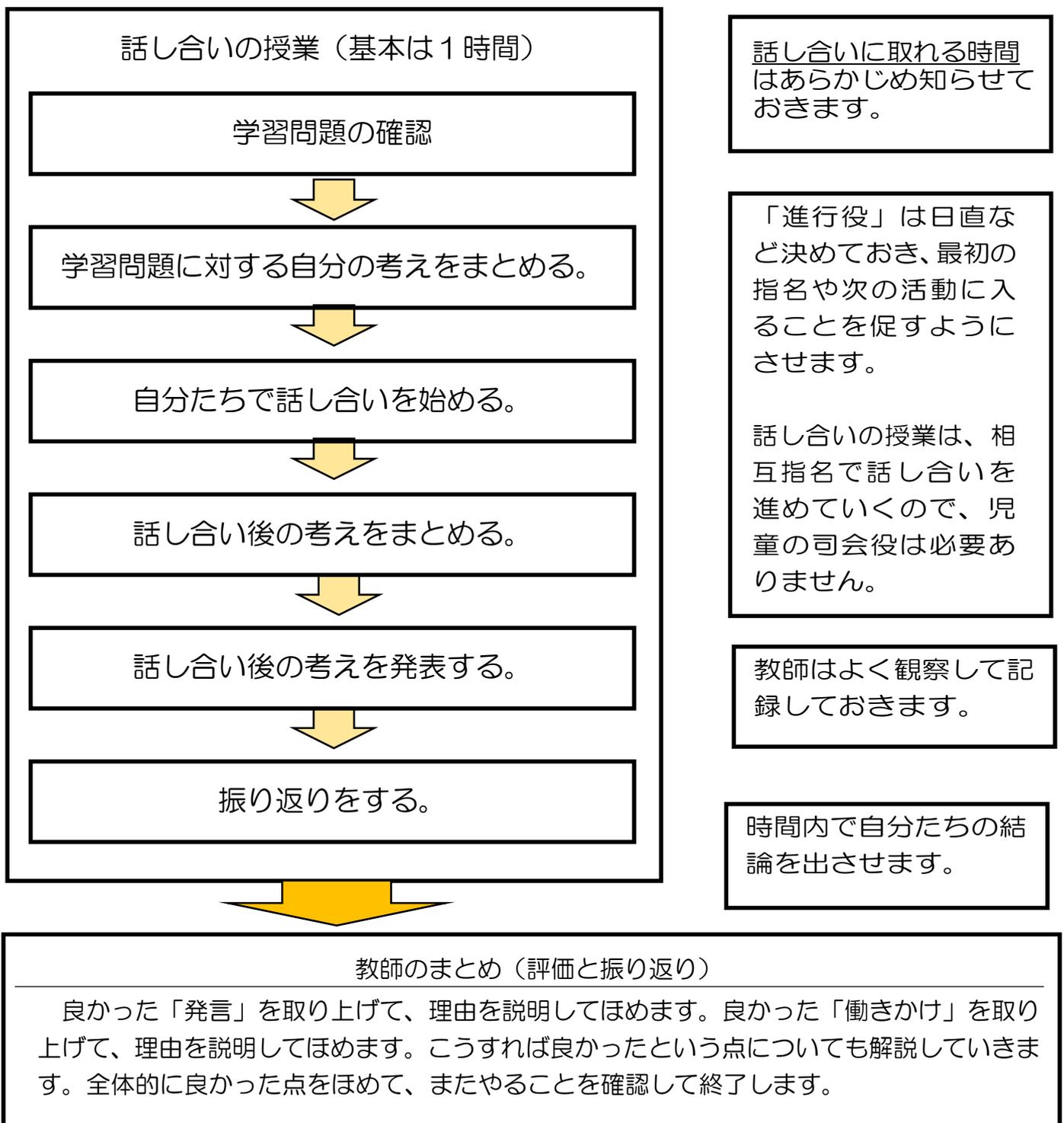
第3章

さらに話し合いを深めるために

話し合いをさらに深められる集団にするために

話し合いで、主体的に考えを深めていける集団づくりをしていくためには、時には、学習問題を子ども達だけで、話し合っ解決してみる体験をさせることも大切です。「自分たちでこの問題について解決できたらすごいんだけど、できるかな？」と投げかけると「うん、できるよ。」などと答え、意欲を示すことと思います。動機付けをして、挑戦させてみることです。話し合いで考えを深めていくことの大切さを子ども達も再認識します。

教師の資料提示や教師の論点の確認や整理がなくても、子ども達が学級集団の力で、どれだけ思考を深められるか知っておくことも大切です。



1. 話し合いは、多様な発言をつないで、考えを積み重ねる作業

学習問題解決の『話し合い』は、いろいろな考えが出されなければ成立しません。そのためには「反対意見、質問、つけたし」など、いろいろな意見を気軽に出せるような雰囲気を作ることが大切です。反対されたからと言って、相手を恨んだり、いじけたりしてしまうと、話し合いにはなりません。反対されたときは、自分と違う考えを知ることができたプラスに捉えさせる指導も大切です。

また、どんな意見でも、間違いでも、発言することは、話し合いに役に立っていることを児童に理解させましょう。

意見につながりがない、ただの言いっ放しでは、話し合いになりません。ただの発表です。話し合いは、意見をつないで積み重ねていき、新たな考えを生み出したり、考えを多様化させたりするためのものです。論点を明確にして、論点の共通理解のもとに、多様な意見を積み重ねていく作業が話し合いです。「意見をつなぐ」とは、情報を関連させて「思考」することです。

2. 学習問題解決のために「話し合い」における「思考」とは

子ども達が、新たな情報と情報を「つないで」意味付けして、自分の考えとしてまとめたり、新たに入ってきた情報を、これまでの知識・経験・価値観・心と「つないで」意味付けして、自分の考えとしてまとめたりすることです。

ここでいう情報とは、当然授業の中で子ども達の発言が主なものとなります。情報と情報を関連させる（つなぐ）ことから、いろいろな思考が始まります。

児童の思考力を養うためには、教師に「子どもの思考レベルを見取ることができる。」、「子どもに思考方法を教えることができる。」、「話し合いで、思考が深まるための論点を作り出すことができる」力が必要です。

そのためには、「思考とはなにか。」、「どのような思考方法があるか。」教師自身が理解し、「集団思考が成り立っているか。」教師が判断できたり、意図的に思考方法を学べたりできる授業を実践することが大切です。

3. 話し合いの進め方の4つの方法（A・B・C・D）

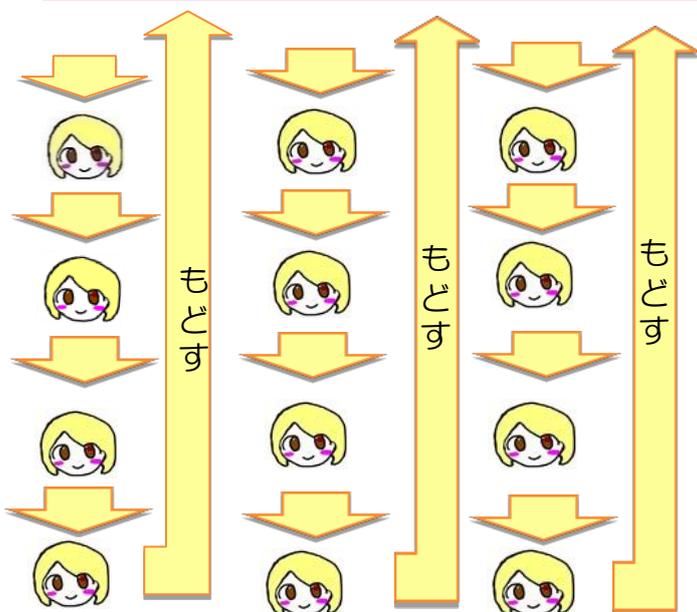
目指す授業は、本時の目標に達成すること及び単元の目標を達成するために行うことは当然ですが、それと同時に授業を通して、「思考力・判断力・表現力・人とかかわる力・創造力」を養うことも大切です。また、このことが学習や生活全般において、主体的に生きる力を養うことにつながります。そのための有効な手だてが、「全員が参加できる話し合い」です。しかし、その話し合いが、集団思考できるものになっていなければ、活動はしていても学びがなかったということになってしまいます。そこで、話し合いが集団思考になるための手立てとして、以下の4つの話し合いの進め方を『基本』と考えていきます。

（※『基本』に縛られるということではありません。いろいろな形態を試みることも大切です。）

話し合いA

最初の一つの意見から、付け足し、反対、質問等で話し合いを進めます。行き詰まったら、最初の学習問題に対する考えに話し合いを戻します。

学習問題

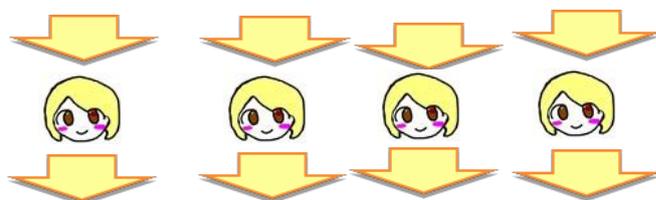


話し合ったことをもとにして、いろいろな視点から考え、自分の考えを形成します。

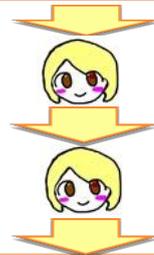
話し合いB

最初に学習問題に対する何人かの考えを出させて、その意見の中から論点を作り、話し合いを進めます。その後は、A B C Dいろいろな形態に変わります。

学習問題



最初に、学習問題に対しての意見をいくつか出してから、その意見をもとに「論点」をつくります。

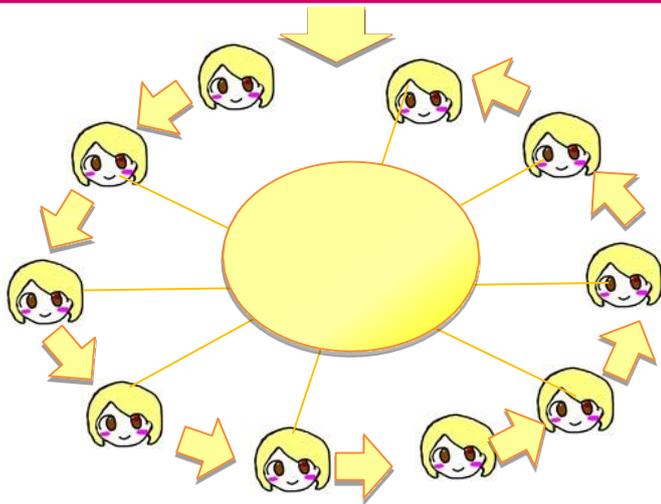


話し合ったことをもとにして、いろいろな視点から考え、自分の考えを形成します。

話し合いC

話し合いを通して、二つ以上の物の特徴を比べ、似ていることを取り出し、共通の特徴をまとめた代表的な言葉をつくり上げます。

学習問題

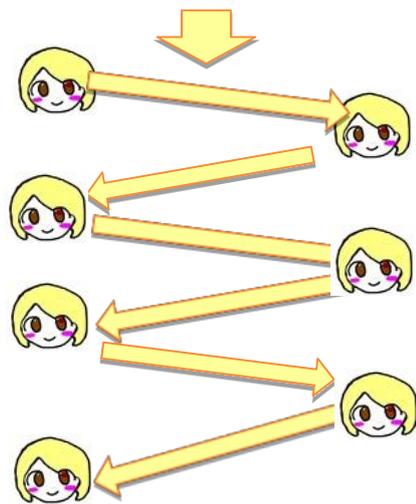


法則や定義などの概念を形成していきます。

話し合いD

対立する考え方を主に二点に集約して、どちらがいいか根拠を言い合い、多面的に考えを深めます。

学習問題

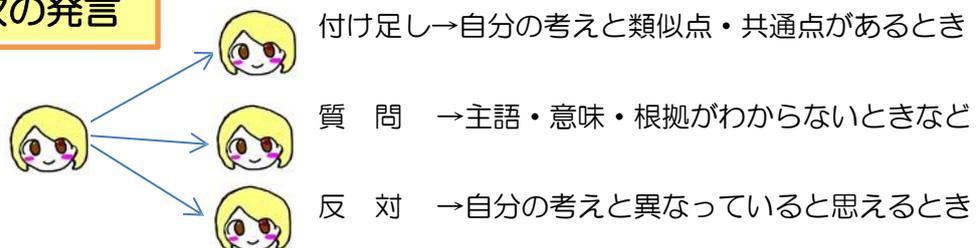


両面から考えていき、最終的な自分の考えを形成します。

4. 「話し合い」と「発表」を区別する

- ※ 発表⇒前の発言との関連性を考えないで発言している。
- ※ 話し合い⇒発言に対して、付け足し・反対・質問でつなげていくこと。
(一つ一つの発言に対して、自分なりの考えを持つこと。)

前の発言→次の発言



※話し合いは、思考の連続になるので、進むにつれて発言できる児童が少なくなってしまう。そこを意識して、どれだけ多くの児童が話し合いに参加できるようにしていくか話し合いを深めていく授業では、最も大切になります。

※一部の児童に偏った話し合いでは、どんなに深まりのあるものになっても、授業としては、成立していないと考えましょう。

5. 話し合いで発言をつなげるとは、論理的思考をすること

論理的に思考することの基本は、まず「関連させて比較する」ことです。「〇〇さんにつけたしで、…です。」「〇〇さんに反対で、…です。」は、自分の考えと関連づけて比較しています。つまり思考しているということです。これが発展すると「〇〇さんと〇〇さんにつけたしで、〇〇さんに反対で、…です。」と多くの意見を関連づけて比較し、自分の考えの位置づけができるようになります。

さらに進歩すると、「Aの発言、Bの発言、Cの発言から、…が言えます。…を予想できます。」「Aの発言、Bの発言、Cの発言は…に当てはまります。」などと帰納に思考したり、演繹的に思考したり、類推したりなど、論理的な思考力が高まります。以下の論理的な思考方法を児童が活用できるようにしていくことが、話し合いを広げて深めるためには、必要不可欠です。但し、論理的な思考は基本となりますが、思いつき・ひらめきなどの水平思考も大切なものです。

意見をつなげる【比較・関連が思考の始まり】

1人の意見をつなげる



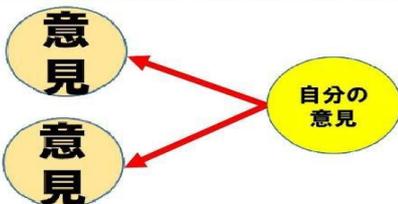
比較・関連

〇〇さんにつけたしです。
〇〇さんに反対です。
〇〇さんに質問です。

さらに意味づけ

〇〇さんの意見と自分の意見を比べると……といえます。

2人の意見をつなげる



比較・関連

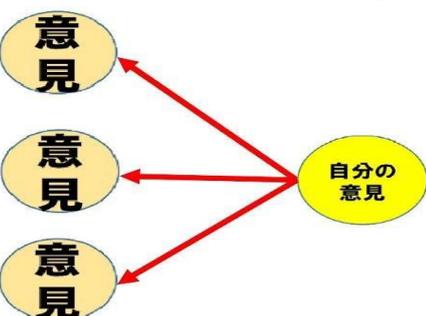
〇〇さんと〇〇さんにつけたしです。
〇〇さんと〇〇さんに反対です。
〇〇さんに反対で〇〇さんにつけたしです。

さらに意味づけ

〇〇さんと〇〇さんの意見から……といえます。

さらに深い論理的な思考

3人以上の意見をつなげる



比較・関連

AさんとBさんにつけたしで、Cさんには反対です。

さらに意味づけ

AさんBさんCさんの発言から…
と言えます。

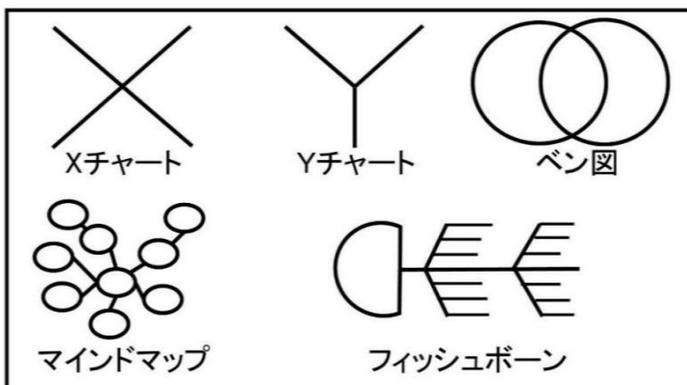
帰納・演繹・推論
二律背反・抽象

6. 論理的な思考方法

比較・関連	級友の発言と発言、またはそれらと自分の発言を比較・関連させて、意味づけすることです。(〇〇さんと同じで■■です。〇〇さんには反対で■■です。〇〇さんにつけたしで■■です。同じです。)簡単に言うと発言を『つなぐ』ということ です。
帰納法	発言ABCの共通点に着目し、こんなことが言える(法則)ということ を導き出し、判断するような場面や論点を作ることです。「人間Aは言葉を使う。人間Bは言葉を使う。人間Cは言葉を使う。AもBもCも言葉を使う。人間は言葉を使う。」
演繹法	発言Aを、一般的な原理に当てはめて説明することです。(前提が事実かどうか が重要になります。)(三段論法が代表になります)「すべての鳥は空を飛ぶ。スズメは鳥である。ゆえにスズメは空を飛ぶ。」
弁証法	2つの対立する考え方について話し合い、中間ではなく、新たな考えを導き出し、判断することです。
両面思考	事例Aを一面的にとらえず、プラス面、マイナス面から見ていくこと です。
多面的思考	事例Aを、話し合いで、いろいろな角度から自由に見ていくこと です。
水平思考	論理的な思考方法(垂直思考)を超えた思考方法です。自由な発想ができる ように促すことが大切です。クイズ等できたえることも考えられます。
創造力	多様な情報と情報をつなぎ合わせて、これまでになかった新しい関係を作り出す力です。
類比推理	甲は、ABCの性質をもっている。乙は、ABCDの性質をもつ。だから甲はDの性質をもつと予想することです。
抽象作用	二つ以上の物の特徴を比べ、似ていることを取り出すこと です。
概念形成	二つ以上の物の特徴を比べ、似ていることを取り出し、共通の特徴をまとめた 代表的な言葉をつくること です。
二律背反	対立する二つの考えの両方が成り立つ場合があることを教えます。あえてど っちが正しいと思うか話し合うことも考えられます。

7. シンキングツールの活用

思考を深めるために役立つ道具として、「シンキングツール」があります。シンキングツールは、考えることを「見える化」してくれます。教師が板書などで活用することもあります が、児童が目的に応じて主体的に「活用」できるように指導すると有効です。



シンキングツールは、つながっていなかった情報(知識)と情報(知識)をつなぎやすくする道具です。

帰納的に思考していると判断できる

-  この三角形の三つの角をたすと180度になります。
- ↓
-  つけたして、もう一つの三角形も180度になります。
- ↓
-  つけたして、この三角形も180度になります。
- ↓
-  ということは、どの三角形も三つの角をたすと180度になるんだ。

演繹的に思考していると判断できる

-  Aは、中心から円周までの長さがぜんぶ同じだから円と言えます。
- ↓
-  Bも、中心から円周までの長さがぜんぶ同じだから円と言えます。
- ↓
-  Cも、中心から円周までの長さがぜんぶ同じだから円と言えます。

視点の転換を図る思考をしている

-  食料の輸入を増やすと、いろいろな食べ物が食べられていいよ。
- ↓
-  つけたして、食べ物の代金も安くなると思います。
- ↓
-  つけたして、たくさん買うようになっていいと思います。
- ↓
- 【反対意見で視点を転換させている。】**
- ↓
-  反対で、輸入を増やすと、日本の農家の人が作ったものが売れにくくなってたいへんだと思います。

質問で、考えをはっきりさせている

-  自動車の輸入を増やすと、いろいろな種類の自動車に乗れていいよ。
- ↓
-  つけたして、自動車を安く買えるようになると思います。
- ↓
- 【質問で発言内容をより明確にする。】**
-  どうして、やすくなるのですか？
- ↓
-  物が多くなると、売れるようにするために安くするからです。
- ↓
-  つけたして、物が少なくて買いたい人が多いと高くなり、買いたい人が少ないと安くなります。

考えを生活経験から導き出している

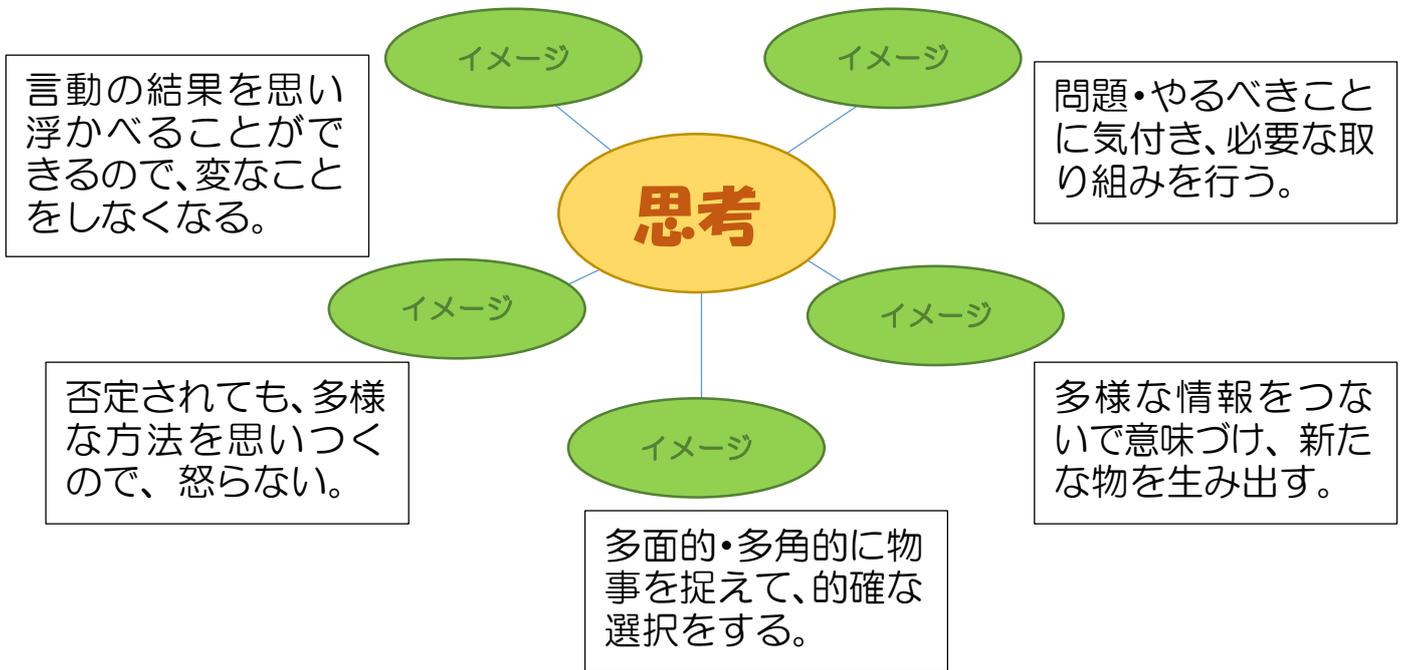
-  やかんでお湯をわかすと、口の先から離れたところは、湯気ができる。
- ↓
-  水蒸気が冷やされると水の粒が大きくなり、霧のように見えるからです。
- ↓
-  外が寒いとき、家の窓ガラスが水滴でくもるのと同じだね。
- ↓
-  つけたして、へやの中に水蒸気があるから、それが冷やされて、水滴ができるのだと思います。

両面から思考する。

-  ↓
-  作っている人たちの給料があがってよいと思う。
- ↓
-  でも、輸入をふやすように要求される。
- ↓
-  輸入を増やすと、国内でつくっている人が、高く売れなくなってしまい、困ります。
- ↓
-  輸出も輸入も相手国と調整して、ほどほどにして、バランスをとったほうがよいと思う。

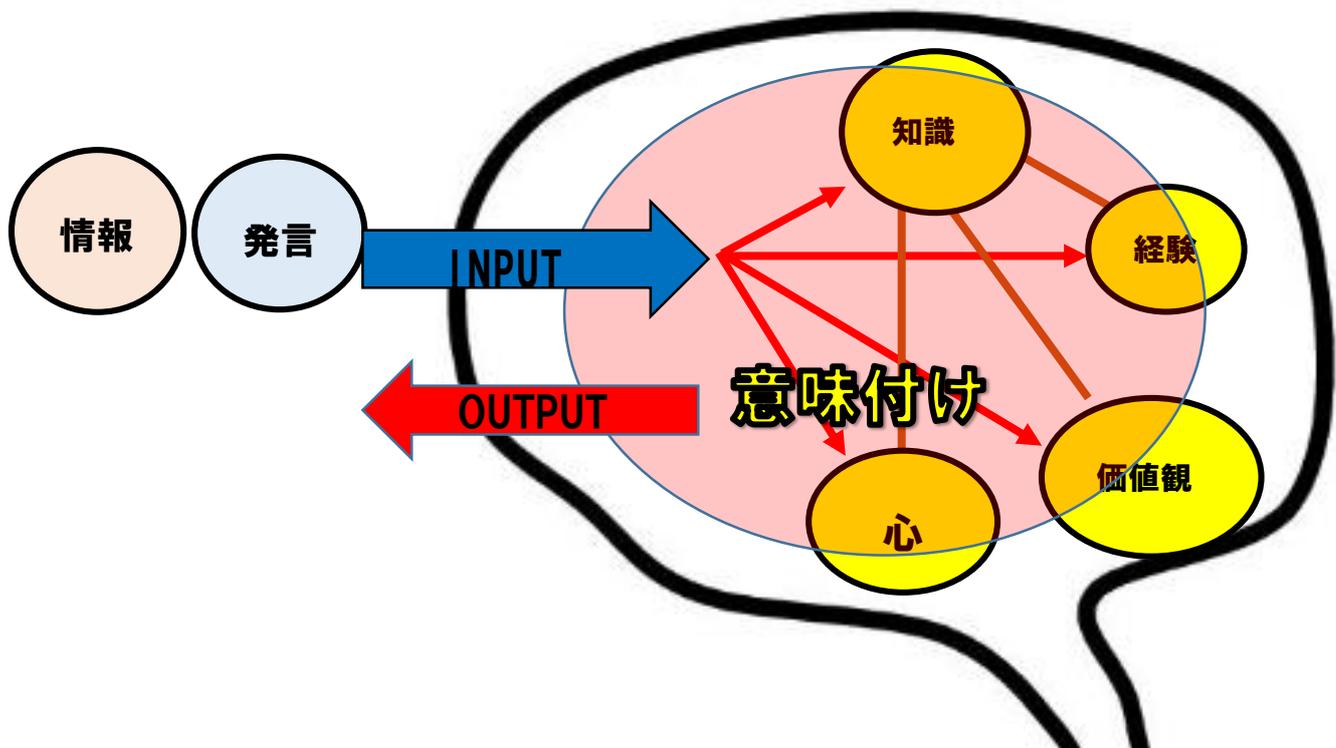
8. 思考力を養うことこそ最優先すべき

『知識は過去のもの、思考は未来に向かうもの』という言葉があります。思考力を養うことがすべての能力を養うことの源になります。下記の内容は、一部を例示したものです。



9. 情報（知識）をつなぎ意味づけ表現する力

頭の中に、知識や経験、価値観、心のネットワークができていて、入ってきた情報をそれらと関連づけて、意味づけ、自分の考えとしてまとめ、表現することができる力をつけることが、学習の中で思考力を基盤とした汎用的な能力を養うということにつながります。



10. 授業の話し合いは、発言や情報をつないで積み重ねるもの。

言いつ放して、意見のつながりがない場合、一人の児童から単発的によい考えが出されたとしても、考えを積み重ねて問題解決に近づいたということにはなりません。それでは思考力を養うこともできません。一人一人の多様な考えを出し合って、積み重ねていき、学習問題の解決に近づけていくのが話し合いです。

学習問題

発言（意見・質問・反対）



発言（意見・質問・反対）



発言（意見・質問・反対）



発言（意見・質問・反対）



発言（意見・質問・反対）

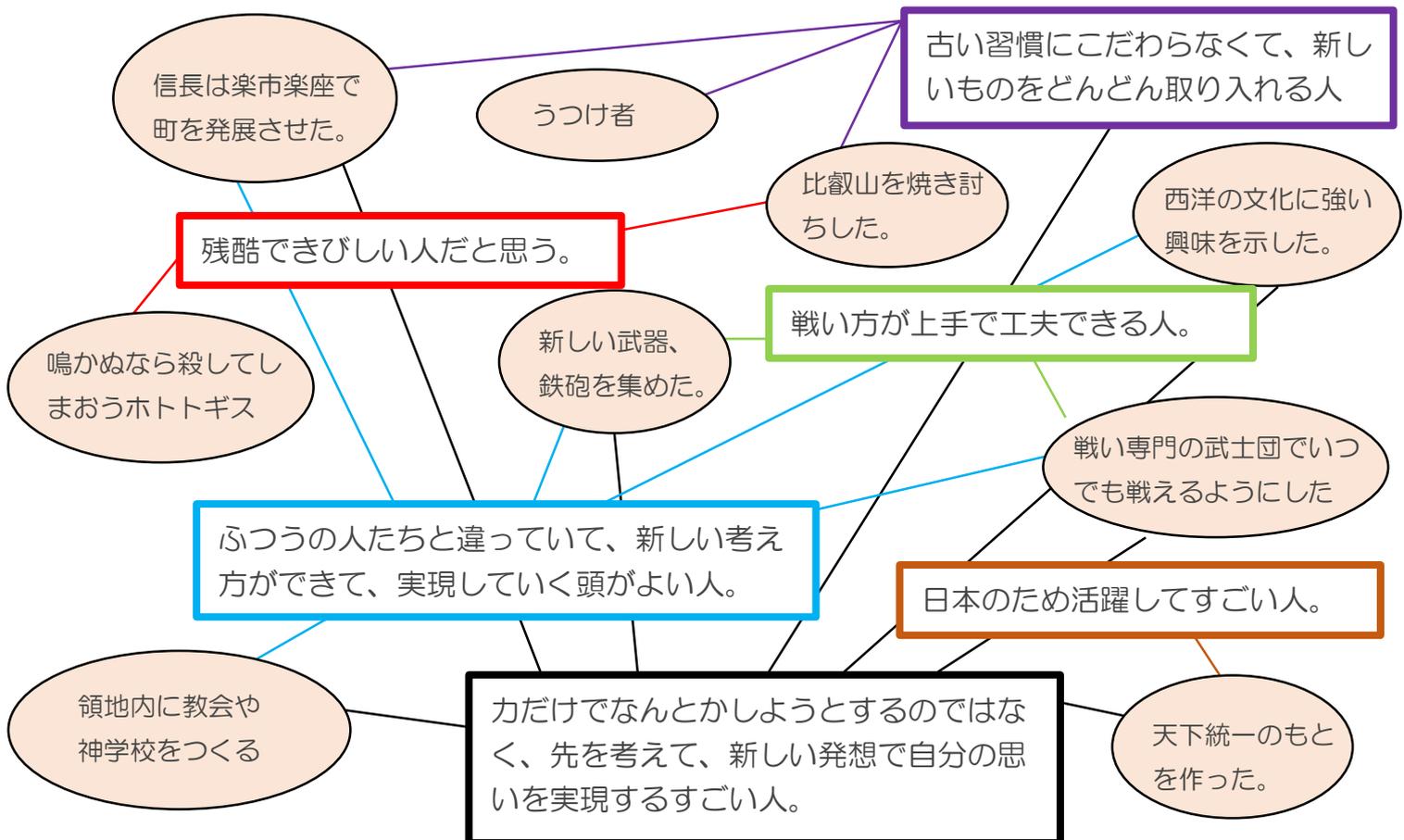


課題に近づくために、発言（考え）を積み重ねていくのが話し合いです。

11. 多くの情報をつないで、意味づけて、自分の考えをもつ。

どれだけ多くの情報をつないで、意味づけることができるかが、思考の深まりを左右します。また、創造力を養うことにも関係します。

(学習問題) 信長はどんな人か自分の考えをまとめて、みんなで話し合ってみましょう。

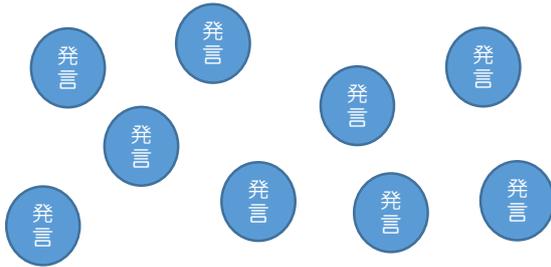


【重要】思考の深まりがある話し合いとは

思考するとは、情報と情報を関連させて意味づけていくことです。授業においては、発言と発言をつなぐ、発言とその他の情報とつなぐなど、「つなぐ」という言葉で表しています。正し、〇〇さんに付け足しで△△さんには反対ですが、というだけでは比較して分類していますが、思考としては浅いものです。多くの発言や情報をつないで論理的な思考をしていくことで、新たなものが生まれます。ただ羅列的に発表されているのか、発言をつないでそこから共通点などを見出す思考ができているか区別することも必要です。

羅列されるだけ

学習問題

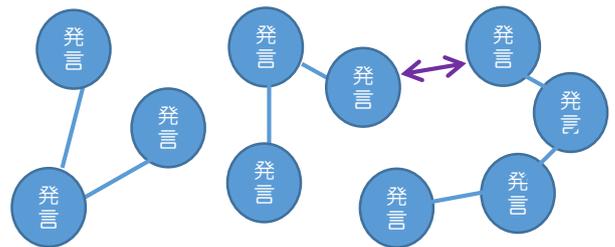


学習のまとめ

発言と発言が全くつながっていませんので、話し合いでの思考はありません。ただ発表しているだけです。これでは、誰かが質の高い発言をして学習をまとめても、思考の深まりがある学習とはいえません。思考力を養うこともできません。

分類されるだけ

学習問題

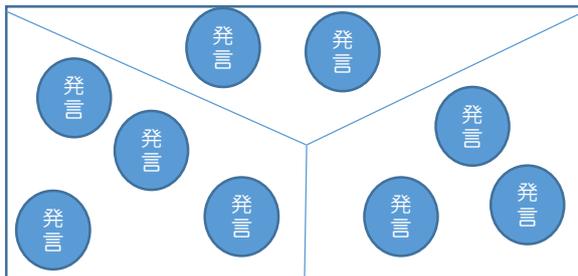


学習のまとめ

つけたし、質問、反対で発言をつなげているだけでは、比較して分類していますが、思考の深まりは期待できません。また、思考力を養える授業にもなっていません。

思考ツールの活用

学習問題

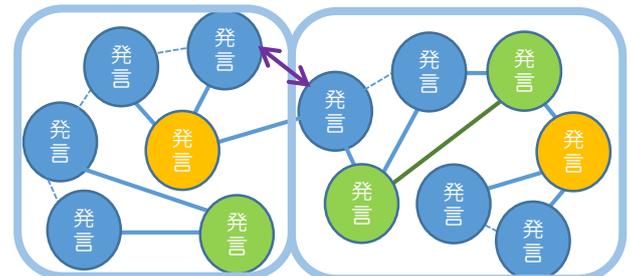


学習のまとめ

思考ツールに分けていくだけでは、つけたし、反対、質問で分類していくのと同じレベルの思考です。これを元にして、共通点を見出したり関連性を捉えたりして意味づけをし、考えを統合していく話し合いをすれば、思考力を養うツールとして、たいへん有効なものとなります。

思考が深まる話し合い

学習問題



学習のまとめ

3つ以上の発言から共通点や意味づけを行い、さらにそれらをまとめていく話し合いが行われている例です。共通点を見出し、まとめていく活動（考えを統合していく）には、論理的な思考方法がとられます。そのために自然に思考力が養われます。最後に生活経験や価値観とも結び付けて、自分の知識を新たに構成することが理想です。

第4章

教材研究

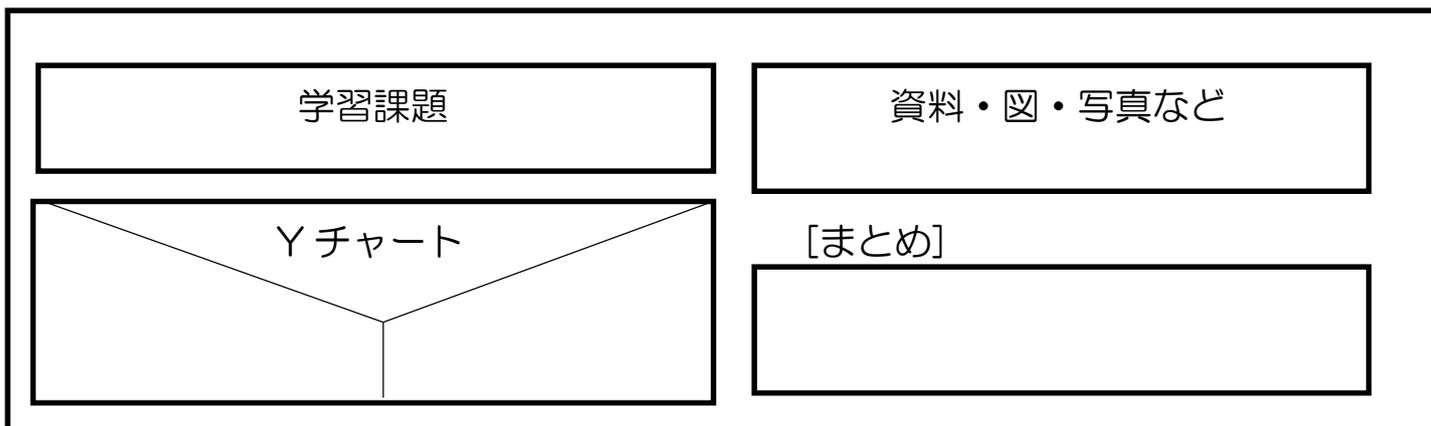
1. 板書の仕方

絶対的にこのやり方がよいというものはありません。先生の指導の仕方・学習内容・児童の実態などにより、いろいろ工夫されることが必要かと思えます。

下記の内容は、『話し合い』を重点に置いた学習の板書であり、最終的にはそれぞれの先生の実践から、独自の効果的な板書方法を見出していくことを期待しています。

- ① 板書は、児童の『思考の手がかり・拠り所』として、活用するためのものと考えます。
- ②勉強するときの、『みんなのノート』として、児童が積極的に利用できるようにすることも大切です。
- ③常に学習問題は『色チョークの枠線』で囲みます。どの授業でも学習の方向性を示すことは大切です。
- ④教師が板書のために、常に黒板の前に張り付いていることは、絶対に良くないことだと認識しましょう。
- ⑤児童が自分の考えを説明するために、気軽に黒板を使えるようにしましょう。
- ⑥児童が自分が発言したことの要点を黒板に記述して、意見を他の意見と線をつないでいく方法も考えられます。
- ⑦大切な部分や何度も使用することは、ゴム磁石を多用して、見やすい黒板にしていくことも必要です。
- ⑧名札のカードを使用すると、意見をつなぎやすくなり話し合いでは有効です。
- ⑨縦書き・横書きは、教科で固定するのではなく、内容で考えることが必要です。
- ⑩思考ツールの使い方を児童に教え、児童自らが目的に応じて活用できるようにします。
【ウェビング ベン図 マトリックス KJ法 ピラミッドチャート Xチャート Yチャート 序列化 マインドマップ ボーン図】

板書例



2. 単元の作り方

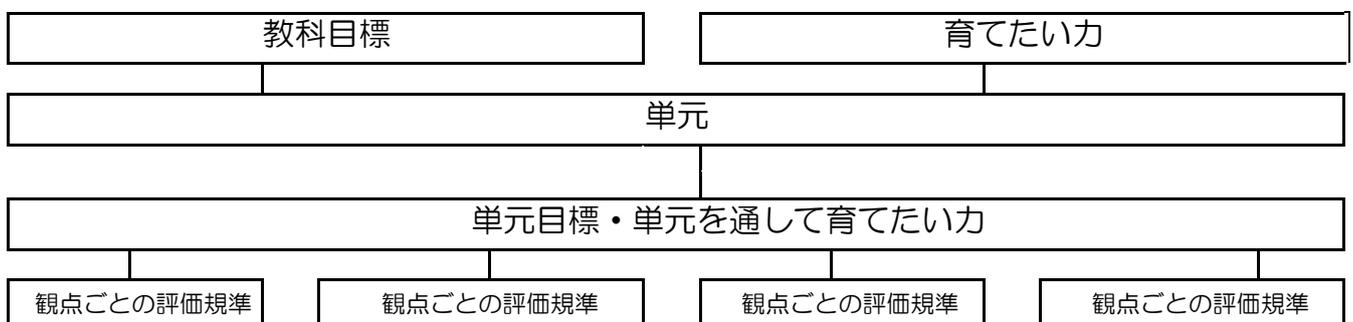
(1) 準備するもの

- ①文部科学省の『小学校学習指導要領解説（〇〇編）』
- ②国立教育政策研究所の『評価規準の作成のための参考資料(小学校)』
- ③教科書会社の『指導書』と『教科書』
- ④単元のねらいに関連する『資料』・『参考書』・『新聞』・『他社教科書』等
☆普段から意識して、集めておくことが大切です。

自分なりに学習問題解決の話し合いを中心に据えた単元を作ってみましょう。

(2) 単元をつくる手順

- ①『小学校学習指導要領解説』を読んで目標と内容を確認し、何が大切なのかを理解する。
- ②『指導書』と『教科書』を読んで、指導の具体例・概要を知る。(一つの例として)
- ③単元の目標を設定する。【『小学校学習指導要領解説』を基盤にしながら】
- ④単元の観点別の目標を設定する。【『評価規準の作成のための参考資料(小学校)』を基盤に】
- ⑤この単元を通して「育てたい力」を設定する。
- ⑥〔単元の構成〕単元の目標を達成するための1時間レベルの目標と指導内容を考える。
『小学校学習指導要領解説』『指導書』『教科書』・資料・参考書・他社教科書等を参考に。
《重要》本校の教育の重点の話し合いの場面の設定を重視する。
- ⑦〔単元の構造化〕指導内容の順序を「児童の意識の流れ」を想定して、決定する。
【各時間の学習課題や論点を明確にしながら、2時間の中の活動とその順序も決定する。】
- ⑧学習に必要な教材（道具・用具・材料・資料等）の準備をする。
- ⑨学習指導の実践
- ⑩実践後、計画の修正等をして、次年度に活用できるように保管する。



1時間レベル	1時間レベル	1時間レベル	1時間レベル	1時間レベル	1時間レベル
目標	目標	目標	目標	目標	目標
学習問題	学習問題	学習問題	学習問題	学習問題	学習問題
学習活動	学習活動	学習活動	学習活動	学習活動	学習活動
評価	評価	評価	評価	評価	評価

3. 話し合いの成否は「論点」次第

『論点』とは、議論の中心となっている問題点であり、話し合いの学習では、話し合いの内容を方向付けて、深めていき、学習の目標に到達させるための重要な役割を果たすものです。

どのような論点ができるかは、課題に大きく左右されますが、子ども達の意見のやりとりから論点は連続的に動いていきます。そのために、論点が、本時の学習から大きくずれてしまい、話し合いの意義が失われてしまうことがあります。そうならないようにするためには、教師として、以下のような力をつける努力が必要です。

- ①その時々話し合いの論点が何になっているか瞬時に的確に捉えられる
- ②目標に達成するための論点を思いつく
- ③児童の意識の流れに即した自然な働きかけをして、論点の修正ができる

4. 「本音」が出される話し合いに

小学校に入ると、教科書を使った学習が始まり、当然学習内容は、抽象化と一般化されたものになっています。そこから、学習が自分の生活経験や価値観、自分の思いと離れたものとなってしまい、自分の心にすんなりと入っていくことが難しくなってきます。

しかし、一般化された知識や経験のみが出される授業は、子ども達の実際の生活と一致してないことが多くあります。すると、発言できる子どもは、「知っている子」に限られてしまい、発言内容も、一般化された内容で、たいへん幅のせまいものとなってしまいます。子ども達からすれば、本音と建て前の違いになってしまい、人間形成や実際に役に立つ学びにつながらないと考えられます。

これからの大きく変革する社会をよりよく生きる力をつけるためには、現実を基盤にした学びが基本になります。つまり、子どもたち一人一人の知識や経験、価値観、思いなどが気軽に表され、現実を基盤にした自分とのかかわりのある話し合いから、抽象化・一般化されていく授業をしていくことが大切です。

そのためには、子ども達が気軽に自分の『本音』を話せる学級集団づくりが大切です。そして、入ってきた情報を、自分のこれまでの経験、知識、価値観に結びつけたり、心で受け止めたりして、それらを意味づけして、自己の考えを再構築して、表現できる力をつけることこそが、人間形成につながる学習を可能にして、「生きる力」をつけていくことにつながります。また、子ども達の『本音』が出される話し合いができる集団になると、話し合いが楽しくなり、良い意味での『笑い』も見られるようになります。

第5章

話し合いの授業の流れの実際と留意点

話し合いの授業の流れから、教師がどんなことに気をつけたら良いか、考えていきたいと思えます。あくまでも例示ですので、このように発言がつながっていかないと悩むことはありません。

社会科の学習では、児童の考えの拠り所となる資料が共通なものとして、教科書と資料集(学年や学級で購入)があります。しかし、これだけだと資料不足のために情報量が少なく、話し合いの広がりや深まりが期待できない場合もあります。

また、自分で資料を見つけて、自分の考えをまとめるという活動に慣れていない場合もあります。

このような点を踏まえて、教師が共通の資料(情報)を授業前に渡しておくことも有効です。但し、最終的には、自分の考えに基づいて主体的に資料を集められるようにすることが大切です。

また、話し合いの学習が、単元の構成上最も重要な場合や深めていく話し合いの場合、その学習の前に1時間調べてまとめる時間を設定することも考えられます。話し合いの授業作りは、単元の構成と構造から考えていくことが必要です。

5年生 社会科「我が国の食料生産」

【本時のねらい】日本の食料生産の自給率と輸出入の問題から、我が国の食料生産のこれからについて話し合い、自分なりの問題解決に近づける方法を考えることができる。

(教師) 学習問題は、『日本の食料の自給率が低いということについてみんなで考えてみよう。』です。

(教師) 自分の考えをノートに書きましょう。

(児童) [ノートに最初の考えをまとめる。]

児童が「最初の考え」をノートに書いているときの支援や助言の例

- 書けそうもない子の様子を見て、教わりに行くように働きかけたり、教えに行くように働きかけたりします。
- どうしても書けそうもない子には、「〇〇さん教えてあげてください。」と指示するか、教師が教えるかします。
- 「同じだと思います。違うと思います。」だけでは話し合いになりませんから、自分の考えを書くときに、どうしてそう思ったのかわけを書きましょう。
- 「いろいろな考えが出るから話し合いは大切なのです。自分なりの考えを恥ずかしがらないで書いてください。」
- 「間違いとか正しくないとか全く気にする必要ありません。家とかで経験したことをもともとするともっとすばらしいです。」
- 「とにかく思ったことを書くことです。一つ書いたら、もっと別の角度から考えたり、ほかのことを書いたりします。いろいろ考えが出ると、話し合いが楽しくなりますよ。」
- 「わからないときや自信がなくて心配なときは、じっと座っていないで、気軽に教わりに行くことが大切です。」
- 「教えることも大切な勉強ですから、教わりたい人には、丁寧に教えてください。助け合って、みんながよくなることが大切です。」

- そろそろよさそうだなと思ったら、「終わった人は手を挙げてください。」と働きかけます。
- 全員手が挙がらないときは、みんなには、全員がよくなるための勉強だから、「助け合いが大切です。」少し待ってくださいと伝えます。
- 学習問題に対しての最初の考えを発表する段階では「先生は全員手を挙げるまで待ちます。最初の考えができなければ、話し合いができなくて、全く勉強にならないからです。」と伝えます。

(教師) では、話し合いを始めます。

(教師) C1 さん。

(C 1) 食料の自給率は高めたほうがよいと思います。国産の商品が安く買うことができるようになるからです。

(児童) 同じです。

(C 1) C2 さん。

(C 2) C1 さんに付け足して、自給率は高くした方がよいと思います。わけは、国産の食べ物は安全だからです。

(C 2) C3 さん。

(C 3) AさんとBさんに反対で、農業をやる人が少なくなっているので、国産の食料をたくさん生産するのはできないと思います。

(C 3) C4 さん。

(C 4) C3 さんに付け足して、田や畑の面積が年々減っているんで、増やすのは難しいと思います。

(C 4) C5 さん。

(C 5) どこから減っていると分かるのですか。

(C 6) 資料集の〇ページの作付け面積の移り変わりのグラフからです。

(児童) [資料集の〇ページを開いて確認する。]

(C 6) C7 さん。

(C 7) 田や畑は、使っていないとだめになってしまいます。だから、すぐに作物を作ることはできないと思います。

(C 7) C8 さん。

(C 8) C7 さんに付け足して働く人もいないと思います。

(C 9) どうして働く人がいないのですか。

(C 9) C10 さん。

(C10) 外国から農作物が入ってくるので、競争になりせつかく作っても安い値段にしかならないので若い人が農業をやらなくなってしまう高齢化が進んでいるからです。

【重要】最初は、時間がかかっても、全員が手を挙げてから、話し合いを始めることが大切です。分からない子は、書くことをまるごと教わってそのまま発言することも認めます。「なにもしないより勉強になります。」とフォローすることも大切です。

付け足しということは、前の発言と自分の考えを比較思考しているので、良いことです。意見をつなげているということで、最初は褒めましょう。

声が出てないようなら「同じだなと思ったときは、『同じです』と声を出してください。」と働きかけてもう一度言わせてください。

根拠をはっきりさせるための質問です。話し合いにおいては、重要なものです。最初の段階では、褒めることが大切です。

共通の資料の場合、全員が確実に資料を見て確認するように習慣をつけます。

〇〇さんにつけたしという言い方は、とてもよいですと褒めます。次へつながります。(子どもたちがこれからしてほしいことは、その場で大げさに褒めることです。)

(C11) 資料集の〇ページで米 1 キロの値段がでているけど、
国産は 229 円に対してアメリカ産は 61 円です。

(児童) [資料集の〇ページを開いて確認。]

(児童) こんなにちがうんだ。

(C12) C11 さんに付け足して、同じ資料集のページで大豆
1 キロの値段がでているけど、国産は 103 円だけ
アメリカ産は 51 円になっています。

(児童) [資料集で確認する。]

(C13) C11 さん C12 さんにつけたしで外国産は安いから、
みんなが買うけど、国産は高いから買う人が少ないん
だと思います。

(C14) 付け足して、日本で作ってももうからないから作る
人が少なくなったのだと思います。

(C15) どうして外国で作ったものは安いのですか。だれか
教えてください。

(C16) 土地が広くて……忘れまして。だれか代わってくだ
さい。

(C17) 広い畑で一度にたくさん作れるので、働く人にかける
お金も少なくてすむからです。

(C18) C17 さんと同じで、日本は耕地面積が狭いので、一
人当たりの収穫量が少ないから買うときの値段が高くな
ってしまうことが問題だと思います。

(C19) 日本でも一軒あたりの農家が持つ土地の広さを広く
すればいいと思います。

(C20) 農業をやる人が減っているのだから、農業を続ける
人に農地をあつめればいいんじゃないかと思います。

(C12) C20 さんに反対です。一つ一つの農地が狭いから、
ある人がたくさん農地を持ったとしても、農地と農地
がなれているから、一度に仕事はできないから安くな
らないと思います。

(C18) C20 さんに反対で、日本は兼業農家が多いから農業
だけやりたいという人が少ないと思います。

(C20) C18 さんに反対で、日本でも会社を作って、耕地を
広くして大規模化してやっているのもあるって聞いた
ことがあります。

(C19) 資料集〇ページの 2011 年の一人当たりの耕地面積
をアメリカと比べると、日本は 144 a だけどアメ
リカは、3176 a です。日本は農地がとても小さい
です。

(児童) [資料集の〇ページを開いて確認する。]

(児童) 本当に日本は小さいんだ。

資料を活用して、根拠のある発言をして
いるので、とてもよい発言ですと、
褒めることも大切です。

外国産と国産の価格の比較から、国産
は高いということを類推しています。

途中で何を言っているか分からなくな
ったら、「だれか代わってくださ
い。」と言って助けてもらえると、気
軽に発言できるようになります。

就農人口の減少と農地の利用を関連
づけて、自分なりの思考ができてい
るので、たいへんよいと捉えられます。

大規模化と兼業農家の現状を関連づ
けて思考していて、たいへんよいこ
とです。

- (教師) 輸入が増えわけを考えてみましょう。
- (C21) 交通が発達して、新鮮なまま運べるようになったからです。
- (C22) 日本は、アメリカ合衆国やオーストラリアと比べると自給率がとても低いです。
- (C2) 世界が食料不足になったら、日本に輸入できなくなるかもしれないので心配です。だから自給率を高くした方がよいです。
- (C16) 食料不足でもお金を出せば、買えると思います。
- (C23) C16さんに反対で、そんなときに輸入したら、他の国の人たちを困らせるから、たいへんなことになります。
- (C15) どうして困るのですか。
- (C2) 食料不足なのに、日本に輸出したら自分の国の人が食べる分がなくなってしまうからです。
- (C15) そういうときは、輸出できないと思います。
- (C1) やっぱり自給率は上げた方がいいと思います。
- (C24) 輸入がストップしたときの「食事の絵」が教科書のOページにあったけど、そうなたらいやです。
- (児童) [教科書のOページを開いて確認する。]
- (C25) 輸入できなくなったら、すぐ作ればいいと思います。
- (C18) C7さんがさっき言ってたけど、田や畑がだめになっていてすぐに作れるようにならないと思います。
- (C26) みそ・しょうゆなどよく使うものの原料になっている大豆は、ほとんど輸入です。
- (C16) 質問です。大豆は日本で作れないのですか。
- (C22) 日本でも作れるけど、値段が高くなるから売れにくいんだと思います。
- (C1) でも、国産の大豆で作った納豆は、自分の家でおいしいから買っています。
- (C2) 付け足して、うちも醤油は、国産大豆で作たものを買っています。
- (C22) 国産のものもあるけど、値段が高いから売れないんだと思います。
- (C19) 資料集から肉や魚も使う量の半分ぐらいしか国内で生産してないことが分かります。
- (C21) 付け足して、若い漁師が年々減っています。
- (C22) 外国から安い魚が入ってくるので、競争になりせっかく取っても安い値段にしかならないです。

価格が安いので輸入されているという話し合いが進んできましたが、それ以外の理由にも目を向けさせるための働きかけです。

前に出された発言を話し合いで生かすということは、話し合いを積み上げているということになり、たいへんよい発言です。

生活経験から出される発言は、話し合いに具体性が出てきて、現実的になり、物の見方やとらえ方に広がりや深まりが出ます。

大豆から肉や野菜に視点に移されて、話し合いに広がりが出ました。いろいろな角度から物事をとらえていくことは大切です。

- (教師) どうすればよいか解決方法を考えようよ。
- (C2) 自給率を上げるしかないと思います。
- (C19) つけたして、小麦、大豆、肉、魚などの自給率はとても低いです。
- (C2) 安全でおいしい食料をを作っているの、工夫すれば値段が高くても売れるかもしれません。
- (C16) C2 にさんに質問ですが、どんな工夫ですか。
- (C21) 品種改良して、たくさんとれるようにすればいいと思います。
- (C22) 反対です。それができたら、もうやっていると思います。
- (C27) C22 さんに反対で、C21 さんに付け足しです。水耕栽培のトマトがたくさん取れるってテレビで見たことあります。前はできなかったかもしれないけど、これからはできるかもしれません。
- (C28) 野菜を作る畑じゃなくて、工場もできましたよね。短い期間で安定してできるって言っていたから、たくさん作れるようになるかもしれないと思います。
- (C10) C28 に反対で工場を作るのには、たくさんお金がかかってしまいます。
- (児童) 同じです。
- (C29) 食生活を見直して、食べ物を無駄にしなければ輸入量も減らせるかもしれません。
- (C30) 小麦は、米よりたくさん取れるらしいからそういうのを作ればいいと思います。
- (C21) つけたして、米と比べると、同じ広さの畑で2倍とれるって教科書の〇ページに書いてあったから、小麦をたくさん作ればいいと思います。
- (児童) [教科書の〇ページを開いて確認する。]
- (C31) 小麦は、パンやピザやスパゲティ、うどんなども作れていいです。
- (C32) 昔と違って、パンやピザやスパゲティを食べる人が多くなったから、小麦をたくさん作ればいいと思います。
- (C10) でも、日本で作ると費用がかかって値段が高くなるから、売れないと思います。
- (C33) 反対です。安全とか、質が良いとかコマーシャルをすれば売れると思います。
- (C34) でもうちの親は安い物を買うよ。

話し合いの方向性を示すための働きかけを教師がすることも有効です。但し、次の指名をするまでは、考える時間をとることも必要です。(意識の流れに即した働きかけが大切です。)

不明確な部分がある発言に対しては、質問して、根拠等を明らかにすることが大切です。子どもから質問が出なければ、教師が「質問はないですか。」と働きかけることも必要です。

反対するということは、別な角度から考えられることです。とてもすばらしいです。だから、自分の意見が反対されるということもよいことだと理解させておきます。反対されるから発言したくないということにならないような配慮を忘れないことです。

実生活との関連性のある発言が多くなると、話し合いの具体性と広がり、深まりが出て、たいへんよくなります。このような発言は、すぐに褒めることです。

- (C35) 最近は、健康についてテレビのCMでもやっけるから売れると思います。
- (C21) 無農薬栽培とか有機栽培とか安全でよさそうだと高くてもたくさん売れるかもしれません。
- (C30) 輸入が止まったときのために、食べ物を保存しておくことも必要だと思います。
- (C33) 災害にそなえて非常食を用意しておくように、たくさん用意しておけばいいと思います。
- (C22) 質問で、だれが用意するのですか。
- (C35) これから考えればいいと思います。
- (C21) 地元で作って、地元で食べるという地産地消も大切だって言われています。
- (C18) C34さんと同じで、買う人にとっては、輸入品が安くていいと思います。
- (C22) うちも値段が安いのが一番と言ってたよ。
- (C34) スーパーは安売りの日はたくさん人が来るから安くないとたくさん売れないと思います。す。
- (C2) C18さん、C22さん、C34に反対で、うちの親は国産じゃないと安心できないって言っていました。自分も国産が好きです。そういう人もたくさんいると思います。
- (C1) 自分も国産の牛がおいしいから、国産がいいです。
- (C22) それぞれの家の考え方の違いでどっちがいいか決まるんだと思いますが、安いほうがいいという人のほうが多いような気がします。
- (C1) C1さんに反対で、話し合いで出た方法をやってみれば、変わるかもしれません。
- (教師)他に問題はないですか。
- (C19) 日本は、輸出が多いから、輸入も多くない貿易まっつになっちゃうよ。
- (教師)質問はありませんか。
- (C34) 貿易まっつってなんですか。
- (C21) 国と国の間の輸出と輸入のつり合いがとれなくなつて一方の国だけがもうかりすぎ。
- (C19) 日本は工業製品の輸出が多いから、食料を輸入するように言われているんだよ。
- (C21) 日本車は性能がよくて人気があり、アメリカでたくさん売れました。でも、アメリカの自動車は日本では売れないからです。
- (C22) 日本がもうかって、アメリカはそんなしているので、日本車は、買わないとか日本車をぶっこわせとかになつてしまいます。

いろいろな場面で自分に入ってきた情報を学習に生かせることも、考えや話し合いに具体性と広がり、深まりが出て、たいへんよくなります。

ここでは、食べ物を保存しておくことも一つの方法として考えられるという可能性を残して話し合いは終わっています。

ここでも自分の生活経験や実生活と結びつけて発言されています。よい発言の時は、極力褒めると、そのような発言がますます増えてきます。児童にしてほしいことは、その場で褒めることです。

自分の価値観と結びつけて、考えをまとめ発言することも大切です。

話し合いが行き詰まってきたので、視点を交える働きかけを教師がしました。タイミングが悪いと発言がなくなります。

ここで質問してほしいなと思うときは、教師が働きかけることが必要です。

質問されるということは、考えがよりはっきりさせられることなので、よいことだと理解させることも大切です。質問された子が答えられないときは、代わつて答えてもらうことが当然であるという雰囲気も大切です。

- (C22) それを解決するために、日本の自動車は、アメリカやほかの国でも作るようにしました。
- (C21) でもTPPとか言っているので、解決できていないと思います。
- (教師) 時間になりました。ノートに話し合い後の考えをまとめましょう。
- (児童) [ノートに最後の考えをまとめる。]
- (教師) まとめたことを発表してください。
- (児童) 自給率を上げなければ輸入ができなくなったときに困ってしまうと思いました。でも、国産の物は高く売れにくいので作る人が減っているということで困るなと思いました。どうすればいいかは今は分かりません。
- (児童) 自給率を上げると、食料品を輸入する量が減ってしまい、工業製品をたくさん輸出している国とは貿易まさつになってしまうということが分かって、難しい問題で、どうすればいいか分かりません。
- (児童) 工場で野菜を生産するとか会社が農地をたくさん集めて広くして、大量生産するとか地産地消を進めていくとか自給率を高めようとする方法が考えられているので、自給率を高めて心配をなくしたほうがよいです。
- (児童) 自給率を上げていくと、貿易まさつになるというけど、仕方がないので工業製品の輸出を減らしていけばよいと思います。
- (児童) 国産品の良さをみんなに伝えたり、自給率を高めたりしなければ困ってしまうときがくるということをおもんに伝えて、国産品を買うようにしてもらい、自給率を高めればよいと思います。
- (教師) 振り返りを書きましょう。
- (児童) 最初自給率を高めれば良いと考えていまいましたが、話し合いで貿易まさつが出て、簡単に決められないことが分かりました。いろいろな意見を出し合うことは良いことだと分かりました。
- (児童) 安い物が買えればいから、自給率を高くしなくてもいいと思っていましたが、もし輸入できなくなったら、すぐに作物が作れないので、本当に困ってしまうということが分かりました。自分とちがう考えを持っている人の意見を聞いて、いろいろ考えることができてよかったです。

自給率を考えていく上で、貿易摩擦という新たな視点が出されました。時間や内容により、どこまで話し合うか教師がその都度判断していくことが大切です。

話し合いのあとの考えを4～5人に発表させて、教師が一人一人褒めていきます。

本時のねらいにせまる最終的に獲得させたい概念にこだわりすぎないことも大切です。学習を通して養う汎用的な力にいても意識しておくことが大切です。

まとめは、一般的で一面的な概念を形成していくことだけではありません。いろいろな情報をつないで意味づけして、多面的で多様なとらえ方をして概念を形成していくことも大切にしてください。

「最後に学習の『振り返り』をします。今日の話合いの授業は、自分にとってどうだったかノートに書かせます。次の学びにつなげるためです。

話し合うことの良さや相手の意見を聞いてプラスになったこと、自分は話し合いでこれからどうしたいかなど書くことが出来るようにしていきます。

(教師)人は、自分と同じときもあるけど、いろいろな考え方をするということがわかったと思います。正しいと思えることは、一つではない場合があるということもわかったかと思います。話し合いは、みんなで考えを出し合いながら、問題を考えていくものです。みんなが助け合いながら、考えを深めていて、とてもすばらしかったです。終わります。

最後に、話し合いの授業でよかったところを教師が確認して、次につながるように、しっかり褒めることも大切です。

思考は情報と情報を関連させることから始まります。授業における思考は発言と発言をつなげることから始まります。発言と発言を「つなげ」つまり関連させて、そこから比較したり、帰納的に考えたり、演繹的に考えたり、類推したりして、思考していきます。この授業例は、ある概念を知識として習得することを目的としたものではありません。食料生産に関する情報や知識、生活経験、価値観を活用して、問題の解決に向けて、話し合い思考を深めて、現在の自分なりの考えを持つことを目的としたものです。もちろんこの授業を通して、教科・領域を貫く汎用的な力を養う的なる力を養うことも目的としています。本時の学習問題は、大人でも解決できていない問題なので、正解はありませんが、これからの時代を生きる子どもたちは、解決できない多くの問題に直面することになります。そんな時、習っていなかったので分かりませんでは困ってしまいます。

他の人と話し合い、協力して解決に向けた最善と思われる方法を考え、実行できる力をつけていくことが大切なのではないでしょうか。

そのためには、日常の授業においても、教科・領域を貫く汎用的な力を養うことも教師として意識する必要があります。

また、期待するまとめができてなかったとしても、話し合いに参加して、自分なりに考えを深めていくことができているならば、後に関連する知識が入ってきたとき、考え(認識)を自分自身で深めていくことができるはずで、ここに知識を習得させることに重きを置いた授業との違いがあります。

但し、知識・技能を習得することに重きを置いた授業も大切です。話し合いを中心にした「活用」の授業と「習得」を中心にした授業のバランスを、学習内容、児童の実態、つけたいかに照らして、考えていくことが大切です。

ノートの取り方（話し合いの学習の例）

学習問題

【最初の考え】

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

話し合いを聞きながら、メモすることは、児童にとって難しいことですが、少しずつでよいので話し合いに役立つことを自分なりにノートに記録できるようにしていくことが、考えを深めていくことにつながります。

【話し合いのあとの考え（まとめ）】

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

【振り返り】

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

調べてきたことを書いたり、資料を貼ったりして、自分が活用しやすいようにまとめられるようにさせたいです。

シンキングツールや図・絵も活用して、自分の考えを深められるメモができるようになっていくことが、とても大切です。

【児童の良い発言】（話し合いを積み重ねることに役立つ発言）

「〇〇さんにつけたしで、●●さんには反対ですが、……。」

「〇〇さんと●●さんと□□さんの発言から、……ということが言えると思います。」

「〇〇さんに代わって説明します。……。」

「〇〇さんと●●さんと□□さんの考えをまとめると、……ということが言えると思います。」

「〇〇さんと●●さんと□□さんは、結局は同じ考え方だと思います。」

「この学習問題については、正反対の考え方も成り立つと思います。」

「今話し合っていること（論点）は、……なので、話しがずれてきていると思います。戻しましょう。」

「もう意見が出尽くしたので、話し合いを最初の問題に戻しましょう。」

「〇〇さんに質問です。その考えは、どこから出てきたのですか。」

「〇〇さんに質問です。どうしてそう考えるようになったのですか。」

第6章

質問コーナー

ハンドサインは、なぜやるのですか？

まず、学級集団として、論理的に話し合いを進める方法を学ぶためです。また、発言する児童が、自分の発言内容が話し合いの中で、「どういう位置づけか」、「他の意見とのかかわりはどうか」など判断させるようにするためでもあります。また、発言した児童が、次の児童を指名するとき、自分の発言に対して「つけたし」を聴いてみたい、「質問」してもらってもっと詳しく説明したい、「反対」意見を聴いてみたいなど、話し合いをつなげていくことを意識させるためでもあります。さらに、教師が、「質問」「反対」「つけたし」のどの発言を児童がしたいのか捉え、話し合いを深めるためでもあります。話し合いが深められる集団になれば、ハンドサインは必要ないものになるはずです。

話し合いで発言できなくても、考えていれば良いのではないのでしょうか？

発言しなくても考えている子は多いと思います。でも、だまっていると考えているかどうか分からないということもあります。何よりも、自分が発言するということは、話し合いでは、次にその発言に対する発言があるということです。質問や反対には、また考えて答える必要性も出てきます。深く考える場を作れるということです。一方的な考えで終わらないということにもつながります。また、将来の社会生活や仕事をする上で、自分の考えを表現することは必要になります。その表現の仕方を学ぶということもあります。

話し合いで、全員発言は無理なのではないのでしょうか？

論点がはっきりして、話し合いが深まってくると、難しくなってきたり、当然みんなが発言することは、できなくなってきました。しかし、そうなっても話し合いに参加できる力をつけたら教師としては考えるはずで、「質問するだけでもよい」、「同じような内容をつけたしするだけでもよい」、「相談して教わったことをまるごと発言してもよい」などと考え、教師としては、なんとかかより多くの子が発言できるように根気よく努力していくべきです。

相互指名で注意することは、どんなことですか？

児童に任せっぱなしにしておくと、特定の児童ばかり指名されるようになってしまい、よさが失われてしまうので注意する必要があります。また、次の児童を指名するのに時間がかかりすぎると間延びしてしまうので、「遅いときは先生が指名します。」などと刺激を与え、スムーズに流れるように働きかけをすることも必要になります。

相互指名では、より多くの児童が手を挙げるまで、次の児童を指名しないように教師が指導していきます。また、近くに座っている児童を指名する場合でも、次に指名する児童がだれなのか、全員に伝わる声の大きさが原則です。指名する子に偏りがないように、注意する必要があります。また、教師が指名したり、教師が話したり、教師が児童の立場になって発言するときは、優先するということを児童に理解させておくことが大切です。そうすれば、相互指名のメリットである「集団として主体的に学習を進められる」、「児童相互の意志疎通が円滑になる」などのよさが出てきます。学びの基本は、相互作用だからです。

なぜ、発言を「つなぐ」ことが大切なのでしょうか？

集団思考するためです。情報（知識）と情報（知識）をつないで意味付けしていくことが思考そのものだからです。級友の発言内容を自分の考えと対比することは、比較・関連する思考となります。そこから、演繹的な思考・帰納的な思考など、様々な思考が始まります。（発言を羅列するだけでは、深い思考は始まりません。）

なぜ、自由に相談させるのですか？

相談することで、自分の拠り所ができて、安心して発言できるようになるからです。みんなが助け合って良くなっていくという意識を持たせていくことにもつながります。助け合いの大切さも学んでいくことができます。

話し合いでは、どうして思考力・判断力・表現力が養えるのですか？

発表するだけでは、単に発言が羅列されるだけです。思考にはつながりません。一つの発言に対して、児童が考えたことを発言する、またその発言に対して考えたことを発言するというように、「情報と情報をつないで意味付ける活動」つまり思考の連続で、思考力・判断力・表現力が養えるのです。

発言がないとき、児童に相談させることはよいことですか？

児童が自然に相談できていれば、あえて相談の時間を設定する必要はありません。発言が途切れてしまい、教師から「相談してください。」では、教師の「逃げ」であり、話し合いが学級集団ができていないという認識をする必要があります。

すべての授業を話し合いにした方がよいですか？

学習内容によります。「習得」させる基本的な知識・技能が多い場合は、話し合いでは効率的ではありません。話し合いを極力取り入れ、鍛えていくことも大切ですが、必要ない話し合いはしない方がよいです。

学習問題（課題）は、児童に作らせた方がよいですか？

最終的には自分達で学習問題（課題づくり）をできるようにする必要がありますが、児童が学習問題を作れるようになるのは、とてもレベルが高いことなのです。『全員で話し合い学び深めていくことができる集団』づくりができて、主体的に学べるようになるまでは、教師が与えることが基本と考えたほうがよいと思います。話し合ったとき、「今日は学習問題のこういうところが良かったから話し合いが深まったね。」などと、少しずつ良い学習問題というのを、児童に理解させていくことも大切です。

ディベートは有効ですか？

話し合いの仕方を学ぶ手段としては役に立ちます。しかし、授業で求めるものは、話し合いの仕方や根拠のつくり方を学ぶだけではなく、学習内容を児童が主体的に受け止め、価値判断したり、認識を深めたり、自分の生き方を振り返ったりすることまでめざすものです。対立する考えとの勝ち負けではありません。

挙手したり発言したりできない子の指導は、どのようにすればよいですか？

このことで、悩める教師はすばらしいと思います。発言に抵抗がある児童には、少しずつ自信を持たせることが大切です。最初は、手を挙げるだけでもよいです。前の発言と全く同じ内容でもよいです。近くの人に丸ごと教わったことを発言してもよいです。言おうとして、忘れてしまったら「忘れました。」で終わってもよいです。発言の途中でだれかに代わってもらってもよいです。そして、少しでもできたときは、褒めることが大切です。一人一人の学ぶ権利を念頭に、その子に応じた段階的な参加の仕方をさせていくことが大切です。

話し合いのルールは、いつまでも固定化するのですか？

話し合いのルールは、一定のところまで高めていくための手段にしかすぎません。話し合いができるような集団になってくると、話し合いのルールがだんだん必要なくなってきました。そうなったときは、学級のみんなでどうしていくか決めることが大切です。（学級の雰囲気と先生の考えで、話し合いの仕方を創り上げていきます。）

秘伝の2は、学習問題の解決の話し合いを通して、主に思考力を養うことを目的とした学習の仕方について説明しています。思考力は、判断力・表現力・創造力・人とかかわる力などの汎用的な力の基盤となるものです。

これからの時代は、解決できない問題に、力を合わせて立ち向かっていくことも必要になります。そのためには、人と議論して考えを積み上げ問題解決に近づく作業ができるようになることが不可欠です。話し合い、意見を出し合い、折り合いをつけ、よりよいものを作り上げていく力をつけていくことです。そのためには、人との関係作りも大切になります。学習内容を習得していくための思考方法を身に付けていくだけでは、このような力をつけていくことはたいへん難しいことだと思います。日常の学習ばかりでなく全ての活動を通して、人とかかわることの大切さやすばらしさを体験しながら学んでいく必要があります。これを実現するのが、秘伝です。また、与えられたことを覚えて、完璧に答えるという作業ができるだけではこれからの時代では活躍できません。創造力を働かせて、新たな需要を生み出せる力が重要になります。この力をつけるためには、多様な情報をつないで、意味づけしながら新しいものを生み出す創造力を身に付けることが大切です。

秘伝の1～3を実現して、それらの相乗効果により、汎用的な力を身に付けた児童は、予測のできないこれまでにない環境においても、問題に気づき、他の人たちと協力して、解決に向けた具体的な取り組みができることと思います。

過去の知識の獲得を優先して、テストができるようになったとしても、それだけではこれから先の時代には通用しません。教師は、社会のこれからについても予測して、必要な力を児童に身に付けさせていくことが、責任を果たすことにもつながるのではないのでしょうか。児童が与えられた勉強をしているだけでは不十分だということと同じように、教師も指導要領と教科書で与えられていることだけを受け身になって教えているだけでは不十分なのです。本当に児童に何が必要なのかを熟考して、意義のある教育ができる教師になるべきです。理屈だけで教育は実現しません。実践者である私たちがどんな学びがこれからの時代に生きる子ども達に必要なか考え、具体的な実践をしていくことから、人間としてのよりよい生き方ができるようにするための貢献ができるのではないのでしょうか。

教師の秘伝シリーズ①～③

平成27年12月

川崎市立川崎小学校

著者 吉新一之

表紙・本文デザイン 森谷一仁

協力 渡辺研

